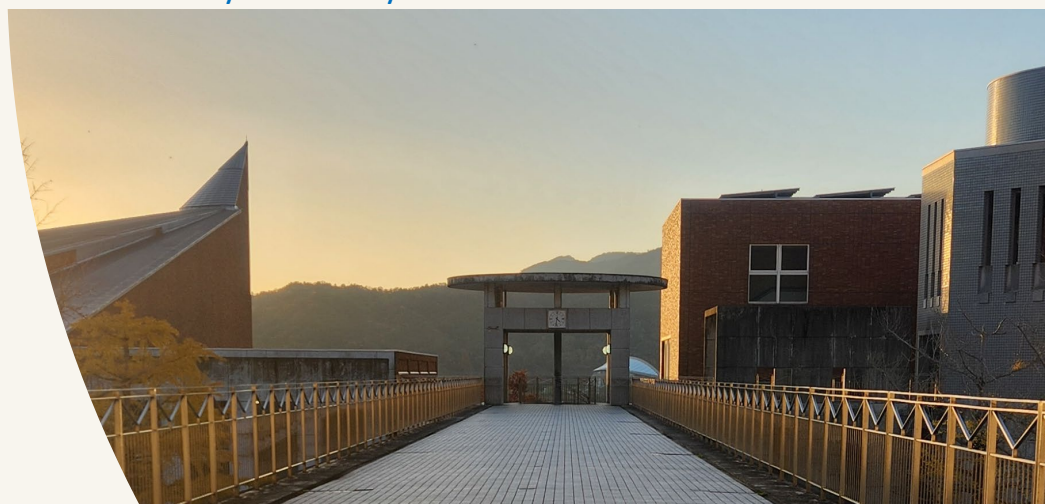


広島市立大学大学院
国際学研究科

履修案内 2026



Hiroshima City University Graduate School of International Studies



2026 Student Handbook



3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

〒731-3194 広島県広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/>



2026年度 履修案内 目次

〈全研究科共通資料〉	1
1 人材育成の目標及びポリシー	
2 2026年度学年暦	
3 2026年度授業カレンダー	
4 履修登録	
5 授業等	
6 附属施設等の利用について	
7 教育職員免許状について	
8 大学院関係諸規定	
〈2026年度入学生対象〉	
【国際学研究科の人材育成の目標及び各ポリシー】	14
【博士前期課程】	
I 国際学研究科博士前期課程の特色	17
教育研究の特色	
II 入学から修了まで	17
1 主指導教員と副指導教員の決定	
2 履修登録等について	
3 他研究科開設科目の履修について	
4 修了必要単位数について	
5 修了要件と修業年限及び長期履修制度について	
6 研究計画書の作成と提出について	
7 「修士論文」と「課題研究報告書」について	
8 修士論文等審査基準について	
9 学位について	
10 教育職員免許状について	
11 単位認定について	
12 提出書類、手続き等一覧	
13 授業科目一覧表	
【博士後期課程】	
I 国際学研究科博士後期課程の特色	29
教育研究の特色	

II 入学から修了まで・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

- 1 主指導教員と副指導教員の決定
- 2 履修登録等について
- 3 修了必要単位数について
- 4 修了要件と修業年限及び長期履修制度について
- 5 研究報告書の提出及び博士候補者の認定について
- 6 博士学位論文の作成及び博士学位論文予備審査について
- 7 博士学位論文の審査及び最終試験の実施について
- 8 博士学位授与の可否の決定について
- 9 博士論文審査基準について
- 10 学位について
- 11 提出書類、手続き等一覧
- 12 博士後期課程修了のプロセス
- 13 授業科目一覧表

〈2025年度以前入学生対象〉

【国際学研究科の人材育成の目標及び各ポリシー】・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

【博士前期課程】

I 国際学研究科博士前期課程の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

教育研究の特色

II 入学から修了まで・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

- 1 主指導教員と副指導教員の決定
- 2 履修登録等について
- 3 他研究科開設科目の履修について
- 4 修了必要単位数について
- 5 修了要件と修業年限及び長期履修制度について
- 6 研究計画書の作成と提出について
- 7 「修士論文」と「課題研究報告書」について
- 8 修士論文等審査基準について
- 9 学位について
- 10 教育職員免許状について
- 11 単位認定について
- 12 提出書類、手続き等一覧
- 13 授業科目一覧表

【博士後期課程】

I 国際学研究科博士後期課程の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
 教育研究の特色

II 入学から修了まで・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

- 1 主指導教員と副指導教員の決定
- 2 履修登録等について
- 3 修了必要単位数について
- 4 修了要件と修業年限及び長期履修制度について
- 5 研究報告書の提出及び博士候補者の認定について
- 6 博士学位論文の作成及び博士学位論文予備審査について
- 7 博士学位論文の審査及び最終試験の実施について
- 8 博士学位授与の可否の決定について
- 9 博士論文審査基準について
- 10 学位について
- 11 提出書類、手続き等一覧
- 12 博士後期課程修了のプロセス
- 13 授業科目一覧表

【資料】

広島市立大学博士学位規程国際学研究科内規・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
広島市立大学大学院学則別表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

全研究科共通資料

人材育成の目標及びポリシー

「人材育成の目標」は、建学の基本理念である「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」に基づき、本学がどのような人材を育てるかを伝えるものです。これは、みなさんが卒業するときに、どんな人になってほしいかという大学からみなさんへのメッセージでもあります。

「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」は、人材育成の目標に基づき、どんな力を身につけた人に本学が学位を授与するのかを伝えるものです。本学での学びを通して、みなさんが卒業するとき、どんなことをできるようになっているのか、どんな力を身につけているのかを示しています。

「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる力をみなさんが確実に身につけられるように、本学がどうしているかを考えて教育課程（カリキュラム）を編成しているかを伝えるものです。みなさんの教育課程を構成するさまざまな科目や条件が、どういう考え方のもとに設けられているのかを示しています。

本学では、大学（大学院課程）全体の方針のもとに、研究科ごとに「人材育成の目標」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を定めています。

大学院課程

人材育成の目標

広島市立大学大学院は、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、最先端かつ高度な専門性と深い学識を有し、課題発見・分析・解決能力を持ち、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

広島市立大学大学院は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の高度な知識・技能・能力を身に付けた上で研究科が定める審査に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与します。

多様な文化・価値観を尊び、人間、社会、自然、平和に関する幅広い関心と知識〈普遍的教養〉
専門領域に関する体系的な知識・技術・技能〈専門的知識・技術・技能〉
豊かな感性と真理探究への情熱に基づく課題発見・分析・解決能力〈課題解決能力〉

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

広島市立大学大学院は、それぞれ博士前期課程と博士後期課程を有する3研究科及び修士課程を有する1研究科で構成され、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、最先端かつ高度な専門性と深い学識を有し、課題発見・分析・解決能力を持ち、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標として、教育課程を次のとおり編成します。

1. 高度の専門性を要する職業等に必要能力を養うため、各研究科において、基礎から応用に至る教育課程を編成します。
2. 博士前期課程については、幅広い視野に立った学識を身に付け、高い倫理観を養うことを目的とする全研究科共通科目群を開設します。
3. 博士後期課程については、各研究科の特性に応じた、高度な研究指導を行います。

各研究科

各研究科の「人材育成の目標」、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」は大学公式ウェブサイトから確認できます。履修する授業科目を決定する前に、以下のリンクから確認をしてください。

https://www.hiroshima-cu.ac.jp/various_info/category0015/content0111/content0656/



学年暦 (2026年度)

		日 程	事 項	
前期 (4月1日～9月30日)	第1ターム (4月8日～6月9日)	4月 1日 (水) ～ 7日 (火)	春季休業	
		4月 2日 (木)	春季入学式	
		4月 2日 (木) ～ 7日 (火)	オリエンテーション	
		4月 2日 (木) ～ 7日 (火)	定期健康診断	
		4月 8日 (水)	前期授業開始	
		4月 2日 (木) ～15日 (水)	前期履修登録期間	
		4月8日 (水) ～14日 (火)、17日 (金)* 4月2日 (木) ～24日 (金)*	教科書販売 (冊子) 教科書販売 (電子)	
		4月22日 (水) ～24日 (金)	前期履修確認期間、第1ターム科目履修取消期間	
		4月30日 (木)	水曜日の授業実施	
		5月20日 (水) ～22日 (金)	前期・通年科目履修取消期間	
		6月 3日 (水) ～ 9日 (火)	第1ターム試験期間 (通年・セメスター科目は授業を行う)	
	第2ターム (6月10日～8月12日)	6月14日 (日)	開学記念日	
		6月24日 (水) ～26日 (金)	第2ターム科目履修取消期間	
		7月 6日 (月)*	第1ターム科目成績開示	
		7月22日 (水)	月曜日の授業実施	
		7月30日 (木) ～ 8月12日 (水)	前期定期試験	
		8月 6日 (木)	平和記念日 (全学休業日)	
		8月13日 (木) ～ 9月30日 (水)	夏季休業	
		8月17日 (月)	全学休業日	
		9月 1日 (火)*	前期・第2ターム科目成績開示	
		9月25日 (金)	秋季卒業式	
		9月24日 (木) ～10月 7日 (水)	後期履修登録期間	
	後期 (10月1日～3月31日)	第3ターム (10月1日～11月27日)	10月 1日 (木)	秋季入学式、後期授業開始
			10月1日 (木) ～7日 (水)、9日 (金)* 9月24日 (木) ～10月19日 (月)*	教科書販売 (冊子) 教科書販売 (電子)
			10月16日 (金)	月曜日の授業実施
			10月19日 (月) ～21日 (水)	後期履修確認期間、第2ターム科目履修取消期間
			10月24日 (土)・25日 (日)	大学祭
11月 5日 (木)			火曜日の授業実施	
11月 9日 (月) ～11日 (水)			後期科目履修取消期間	
11月23日 (月) ～27日 (金)			第3ターム試験期間 (通年・セメスター科目は授業を行う)	
11月23日 (月)・勤労感謝の日			月曜日の授業実施	
第4ターム (11月28日～2月5日)		12月14日 (月) ～16日 (水)	第4ターム科目履修取消期間	
		12月24日 (木)*	第3ターム科目成績開示	
		12月26日 (土) ～ 1月 3日 (日)	冬季休業	
		1月26日 (火)	金曜日の授業実施	
		1月27日 (水) ～ 2月 5日 (金)	後期定期試験	
		2月 6日 (土) ～ 3月31日 (水)	学年末休業	
		3月 2日 (火)	卒業判定結果の開示 (4年次)	
		3月 3日 (水)*	後期・第4ターム・通年科目成績開示	
		3月19日 (金)*	【国際・芸術】卒業論文・卒業制作着手判定結果開示(3年次)	
		3月19日 (金)*	【情報】配属学科(1年次)、進級判定結果(1～3年次) 開示	
3月23日 (火)	春季卒業式			

*の日程は変更の可能性があります。いちばる (UNIPA) の掲示で別途お知らせしますので確認してください。

2026年度 授業カレンダー

前 期								後 期							
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月	29	30	31	1	2	3	4	10月	27	28	29	30	1	2	3
	5	6	7	8	9	10	11		4	5	6	7	8	9	10
	12	13	14	15	16	17	18		11	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24	25		18	19	20	21	22	23	24
	26	27	28	29	水30	予1	2		25	26	27	28	29	30	31
5月	3	4	5	6	7	8	9	11月	1	2	3	4	火5	6	7
	10	11	12	13	14	15	16		8	9	10	11	12	13	14
	17	18	19	20	21	22	23		15	16	17	18	19	20	21
	24	25	26	27	28	29	30		22	23	24	25	26	27	28
6月	31	1	2	3	4	5	6	12月	29	30	1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12	13		6	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19	20		13	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26	27		20	21	22	23	24	25	26
7月	28	29	30	1	2	3	4	1月	27	28	29	30	31	1	2
	5	6	7	8	9	10	11		3	4	5	6	7	8	9
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	予15	16
	19	20	21	月22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23
8月	26	27	28	29	30	31	1	2月	24	25	金26	27	28	29	30
	2	3	4	5	6	予7	8		31	1	2	予3	予4	予5	6
	9	予10	11	予12	13	14	15		7	8	9	10	11	12	13
	16	17	18	19	20	21	22		14	15	16	17	18	19	20
9月	23	24	25	26	27	28	29	3月	21	22	23	24	25	26	27
	30	31	1	2	3	4	5		28	1	2	3	4	5	6
	6	7	8	9	10	11	12		7	8	9	10	11	12	13
	13	14	15	16	17	18	19		14	15	16	17	18	19	20
9月	20	21	22	23	24	25	26	3月	21	22	23	24	25	26	27
	27	28	29	30					28	29	30	31			

授業・試験実施

凡例

- * 太線枠内は、授業等を行う期間
(集中講義は太線枠外でも行う)
- * は、入学式、卒業式
- * は、授業等振替日
- * 予 は、授業予備日 (通常授業はなし)
- * は、第1・第3ターム科目の試験期間
(通年・セメスター科目は授業を行う)
- * は、期末試験日
- (予 は、試験予備日)
- * は、祝休日に授業・試験を行う日
- * は、全学休業日

クォーター期間

- ・ 第1ターム (4月8日～6月9日)
- ・ 第2ターム (6月10日～8月12日)
- ・ 第3ターム (10月1日～11月27日)
- ・ 第4ターム (11月28日～2月5日)

学内行事等

- (1) 春季入学式は4月2日 (木)、秋季入学式は10月1日 (木) とする。
- (2) オリエンテーションは、4月2日 (木) ～7日 (火) とする。
- (3) 6月14日 (日) の開学記念日は日曜日なので、振替日はなしとする。
- (4) 8月6日 (木) は、平和記念日のため休業とする。
- (5) 秋季卒業式は9月25日 (金)、春季卒業式は、3月23日 (火) とする。
- (6) 1月15日 (金) は授業を行わず大学入学共通テスト準備を行う。

授業関係

- ア 4月30日 (木)は、水曜日の授業を実施する。
- イ 5月1日 (金)は、授業予備日とする。(通常の授業はなし)
- ウ 7月22日 (水)は、月曜日の授業を実施する。
- エ 10月16日 (金)は、月曜日の授業を実施する。
- オ 11月5日 (木)は、火曜日の授業を実施する。
- カ 11月23日 (月・勤労感謝の日)は、月曜日の授業・試験を実施する。
- キ 1月26日 (火)は金曜日の授業を実施する。

履修登録

履修登録とは、履修しようとする授業科目を登録する手続きです。履修登録を行っていない授業科目は、必修科目であっても受講することはできないため単位を修得できません。登録内容の誤りなどにより進級や卒業ができなくなっても、自身の責任となります。以下の流れで手続きを行いますので、前述の資料や大学からの連絡事項に十分注意して、間違いのないように履修登録を行ってください。各期間の日程は、学年暦を確認しましょう。

STEP

1

履修登録期間

いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。いちぼる (UNIPA) の操作マニュアルを参考に、指定の期間に正しく登録してください。前期の履修登録期間には、年間 (前期・後期の両方) の科目を一括して登録することができます。前期に登録した後期開講科目は、後期の履修登録期間で修正できます。



- 履修登録すると、いちぼる (UNIPA) のクラスプロフィールから授業情報 (講義資料など) が確認できます。
- 第2・4ターム科目や集中講義などの学期途中から始まる授業も、当該期間中に必ず登録してください。
- クラス分けのある授業などは、あらかじめ履修登録されている場合があります。内容に変更がある場合は事務局教務グループまでお問い合わせください。
- 履修内容にエラーがあるときは、必ず登録内容を見直し、必要に応じて修正をしてください。エラーの内容が分からない場合は、事務局教務グループまでお問い合わせください。

【よくあるエラーの内容】

- ・履修の上限単位数を超えている
- ・必修科目を登録していない
- ・必要要件単位を満たしていない

STEP

2

履修確認期間

履修確認期間はSTEP1の期間に登録した科目を変更・追加・削除できる期間です。いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。変更内容は、事務局で確認した結果、却下される場合もあります。履修内容に変更がない場合、手続きは不要です。

自身の確認不足による登録誤りは、履修確認期間終了後に修正することができません (後述の履修登録取消制度で取消しをする場合を除く) ので注意してください。

STEP

3

履修確定

STEP1・2の期間を経て履修内容を確定します。履修確定後、当該年度内の卒業が見込まれる場合には、卒業見込証明書が発行できるようになります。

GPA制度 と履修

履修取消期間

履修取消期間は、一度履修登録を確定させた授業科目について、GPA制度に基づき、登録を取り消すことができる期間です。いちぼる (UNIPA) から手続きを行います。

授業の内容が自分の勉強したいものと違っていた、授業に対する知識が不足していることに気付いた、学修時間を確保するために履修科目数を減らしたい、といった場合に手続きを行いましょう。



- 必修科目やシラバスに取消不可と明記されている科目は取り消しできません。
- 集中講義科目は初回授業の2週間前まで履修取消ができます。当該期限以降の履修取消期間での取消はできませんので注意してください。手続きはいちぼる (UNIPA) の「Web申請」から行うことができます。

ワンポイント・アドバイス

いちぼる (UNIPA) の「Web申請」では、各種手続きについて案内しています。申請様式のダウンロードや、なかにはオンラインで申請できるものもあります。

希望資格登録

教育職員免許状の取得や学芸員を目指す人は、「希望資格登録」を行う必要があります。希望者は履修登録期間内にいちぼる（UNIPA）から必ず手続きをしてください。登録がない学生は、資格取得関係科目の履修ができなかったり、教職や学芸員資格に関するお知らせ等が配信されなかったりしますので注意してください。

履修にあたっての注意事項

(1) 履修の禁止

次の授業科目は履修することができません。

- ・履修登録をしていない授業科目
- ・既に単位を修得した授業科目

(2) 履修登録上限単位数

学修における予習・復習の時間を十分に確保し、一つひとつの授業科目の理解を深めるために、次のとおり1学期に履修できる単位数の制限を設けています。通年科目は、その単位数の1/2を1学期あたりの単位数として計算します。



履修登録上限単位数
24単位



MEMO
前期・後期授業期間中に実施する集中講義は、この上限単位数に含まれます。

<例外>

- 履修登録上限の対象とはならない授業科目
 - ・長期休業期間（夏季休業・学年末休業）に実施される集中講義
 - ・自由科目、資格取得関係科目
- 履修登録上限の対象とはならない学生
 - ・情報科学部で履修登録単位数の上限解除が認められた学生（所属学科の承認が必要です。）

(3) 下年次開設科目の履修（再履修）

下年次開設科目や、単位を修得できなかった授業科目は、次年度（または次学期）に再履修することができます。ただし、再履修にあたっては、担当教員の承認が必要となる場合があります。

(4) 他学部・他学科履修等

所属する学部以外の学部開設されている全学共通系科目あるいは所属する学部・学科・専攻以外の専門教育科目の履修を希望する場合は、以下の手順で手続きを行ってください。なお、他学部・他学科履修により修得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は10単位です。

他学部履修

所属する学部以外の学部開設されている授業科目の履修を希望する場合は、いちぼる（UNIPA）の「Web申請」から履修登録期間内に「他学部履修申請」を行ってください。

他学科履修（情報科学部のみ）

所属する学科以外の学科開設されている授業科目の履修を希望する場合は、必ず授業担当教員の承諾を得た上で、履修登録期間内にいちぼる（UNIPA）から履修登録を行ってください。無断で履修してはいけません。履修登録のSTEP2の期間までに教務委員による審査を行い、結果を通知します。審査の結果、却下される場合もあります。

また、自学科でも開設されている授業科目と同一名もしくは内容が同じと認められる他学科の授業を履修する場合には、「Web申請」から「代替履修許可申請書」をダウンロードし、履修登録期間内に事務局教務グループに提出してください。

(5) 遠隔授業の履修

授業の実施形態が「オンライン」または「オンデマンド」の授業について、卒業要件として認められる単位の上限は60単位（(4)および後述の単位互換制度により修得した単位を含む）です。授業の実施形態はシラバスで確認することができます。

単位互換制度

単位互換とは、本学以外の大学が提供する授業科目を受講して修得した単位を、本学の単位として認定する仕組みです。単位互換制度により修得した単位のうち、卒業要件として認められる単位の上限は60単位（前述の(4)および(5)により修得した単位を含む）です。

◆ 協定を結ぶ機関との単位互換

(1) 海外学術協定校への派遣留学

本学では海外の大学と協定・覚書を締結し、学生の交換留学を推進しています。派遣期間中に修得した単位は、学部での審査を経て、本学の単位に認定することができます。認定を希望する場合は、事務局教務グループにご相談ください。

また、協定校以外の大学に留学して単位を修得する場合でも認定できることがあります。希望する場合は、必ず留学前に事務局教務グループに確認してください。

<手続きに必要な書類>

- ・単位認定願（事務局教務グループで配布）
- ・成績証明書（原本）
- ・認定を希望する授業科目のシラバス
- ・認定を希望する授業科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・成績評価基準が分かるもの

※いずれも外国語で書かれたものであれば、日本語訳を添付すること

(2) 教育ネットワーク中国

本学では他大学との連携や、教育内容の充実を図る目的で一般社団法人「教育ネットワーク中国」が実施する単位互換制度に加入しています。広島県内の大学を中心に23の大学等が参加しており、各大学が提供する授業科目を単位互換科目として受講することができます。修得した単位は一部を除き、原則自由科目として認定されますが、学部によって科目の取扱いが異なるので、Webで公開される募集要項等を確認するようにしましょう。

（一社）教育ネットワーク中国 <https://www.enica.jp/>

◆ 既修得単位等認定

本学に入学する前に大学又は短期大学で修得した単位は、学部での審査を経て、全学共通系科目又は外国語系科目として認定することができます。入学した日から1か月以内に申請が必要です。認定を希望する場合は、事務局教務グループに早めに相談してください。

<手続きに必要な書類>

- ・既修得単位等認定願（事務局教務グループで配布）
- ・成績証明書（原本）
- ・認定を希望する授業科目のシラバス
- ・認定を希望する授業科目の学修時間や単位数が分かるもの
- ・成績評価基準が分かる

授業等

科目の種類

授業科目は講義、演習、実験、実習、実技などに区分され、それぞれ授業時間や単位数が異なります。また、科目の性質によって以下のように区分されますので、よく理解しておくようにしましょう。授業科目の詳細は教育課程表を参照してください。

必修科目

卒業のために必ず単位を修得しなければならない科目です。

選択科目

卒業のため自身の教育課程表の中から、選択することができる科目で、修得単位は卒業要件単位に加算されます。卒業要件をよく理解したうえで選択する必要があります。

自由科目

興味関心に応じて自由に履修することができる科目です。例えば、資格取得関係科目が該当します。卒業要件単位には数えられませんので注意してください。

単位

それぞれの授業科目には単位数が決められています。1単位を修得するためには、教室内での授業等の時間及び教室外での自主的な学修時間を合わせて45時間の学修を行う必要があります。なお、45時間のカウントについては、講義、演習、実験、実習、実技によって原則的に次のようになっています。

区 分	大学の授業での学修時間	授業時間外の自主的な学修時間	合 計
講 義	15時間	30時間	45時間
演 習	30時間	15時間	45時間
実 験 実 習 実 技	30～45時間	0～15時間	45時間

授業時間

時限	授業時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30

注) 通常の授業は1～5時限で行われます。

開講区分

授業科目は次の開講区分により開講されます。

開講区分	説明（開講期間）
通年科目	年間を通して開講
前期科目	前期半年間に開講
第1ターム科目	前期半年間の前半に開講
第2ターム科目	前期半年間の後半に開講
後期科目	後期半年間に開講
第3ターム科目	後期半年間の前半に開講
第4ターム科目	後期半年間の後半に開講
集中講義科目※	特定の期間に集中して開講

※ 基本的には、前期又は後期に開講する授業科目ですが、諸般の理由により長期休業期間（夏季休業、学年末休業）も含め集中開講となるものです。

授業アンケート

本学では、学生のみなさんが授業をどのように評価しているかを知り、授業の改善に役立てるために授業アンケートを実施しています。回答した個人が特定されることはありませんので、率直な意見を回答してください。詳細は学期末に[いちぼる \(UNIPA\)](#)の掲示でお知らせします。

教科書等

授業で使う教科書や参考書は、[いちぼる \(UNIPA\)](#)の「シラバス照会」から確認できます。また、一部の授業では電子教科書システムUniTextを利用します。指定の教科書は、学内の書店や販売サイトで購入できます。販売期間等は学年暦やいちぼる (UNIPA) の掲示で確認してください。なお、教科書等は附属図書館で借りることもできますが、冊数には限りがありますのでご注意ください。

授業で利用するシステム

[いちぼる \(UNIPA\)](#)で履修登録をすると、登録した授業の時間割や「クラスプロフィール」を確認できるようになります。クラスプロフィールでは、授業資料の確認や課題やテストの提出ができます。

そのほか、大学のアカウントで利用可能なMicrosoft TeamsやGoogle Classroomを使う場合もありますので、授業担当教員の指示に従ってください。

講義等を欠席する場合の手続き

病気やケガによる入院等、やむを得ない事情により講義等を欠席する場合は、その講義等の担当教員まで申し出てください。なお、感染症にかかった場合は以下のリンクから確認してください。

<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/content0069/>

休講・補講・教室変更などの通知

休講・補講・教室変更などがある場合には、[いちぼる \(UNIPA\)](#) で通知します。授業担当教員から直接連絡がある場合もあるため大学付与のメールアドレスも毎日チェックしましょう。

こうした通知や連絡を見なかったために皆さんに不利益が生じて、大学は責任を負いません。毎日通知や連絡を見る習慣を身に付けてください。

ワンポイント・アドバイス



掲示

いちぼる (UNIPA) の「掲示」では、大学からのお知らせが確認できます。

休講・補講・教室変更などの通知をはじめ、重要な手続きやイベントの案内、授業内の連絡など様々なお知らせが届きます。常に確認する習慣を付けましょう。

自然災害や交通機関の運休時の授業

暴風雨などの自然災害やストライキ等によって公共交通機関の運行に支障が生じたり、そのおそれがある場合は、状況に応じて授業を休講とする場合があります。その取扱いは次のとおりとします。

1. 授業の実施が困難な場合の判断基準

- (1) 広島地方気象台から広島市安佐南区に暴風警報、暴風雪警報又は気象等に関する特別警報のいずれかが発表された場合
- (2) 暴風雨などの自然災害やストライキ等により、ア又はイが発生した場合
ア アストラムライン及び高速4号線を通過する広島電鉄バスの双方が全面的に運行停止
イ JR山陽本線において広島駅又は横川駅を含む区間が運行停止

2. 休講の取扱い

- (1) 授業開始後に上記1のいずれかの事由が発生した場合は、その後に開始される授業を休講にします。
- (2) 授業開始前に上記1のいずれかの事由が発生している場合は、発生した時間により次のとおり休講とします。
 - 午前7時の段階で上記1の事由が発生している場合は、午前中の授業は休講
 - 午前10時の段階で上記1の事由が継続している場合は、午後の授業もすべて休講

3. 避難情報の「警戒レベル」について

災害が発生し、または発生するおそれがある場合に、自治体から発令される避難情報の「警戒レベル」は、休講の判断基準となりませんが、本学・自分の居住地域・通学途上の地域に『避難指示』（警戒レベル4）以上が発令されている場合は、自分や家族の身の安全を最優先に考え、授業に出席するか欠席するかを判断してください。

欠席しても「欠席扱い」とはなりませんので、後日、担当教員に事情説明を行い、授業の指示を仰いでください。（定期試験の場合は、1週間以内に「追試験受験願」を事務局教務グループに提出してください。）

なお、本学は安佐南区の「緊急避難場所」に指定されています。

4. その他

上記1の判断基準に該当しない自然災害（地震など）及びそれに伴う公共交通機関の運行停止などが発生した場合の休講等についてはその都度お知らせします。

障がいのある学生への支援

心身に障がいのある学生が他の学生と同じように授業を履修し、大学生活を送れるよう合理的な配慮を行っています。配慮を希望する学生は、心と身体の相談センターの保健室または、相談室に相談してください。

申請の対象になるのかわからない、どんな配慮を希望してよいのかわからない、困っているけれどどこに相談したらよいのかわからない等、何でも相談できますので、まずは、気軽にお問い合わせください。

詳細はこちらから <https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/category0006/c00032297/>

附属施設等の利用について

開館・利用時間等は、各ホームページから最新情報を確認してください。
各施設の場所は、[キャンパスマップ](#)をご覧ください。

1	附属図書館	附属図書館オリジナルサイト (年間カレンダー) 電話 082-830-1508
2	語学センター	語学センターオリジナルサイト 電話 082-830-1509
3	情報統括センター	情報統括センターオリジナルサイト 電話 082-830-1511
4	心と身体の相談センター	心と身体の相談センター (大学ホームページ) 電話 082-830-1510
	保健室	応急手当、健康相談、健康チェック等 (本部棟1階)
	相談室	カウンセリング (本部棟1階)
5	法律相談	紙屋町法律相談センターでの法律相談 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)
6	売店	(学生会館2階)
	コンビニ	文房具、弁当、生活用品、書籍等 [生活彩家]、[紀伊国屋書店]
	画材店	画材等 [ピカソ画房]
7	学生食堂	定食、めん類、カレー等 (学生会館1階)
8	喫茶	軽食類、デザート類、コーヒー等 (学生会館1階)
9	駐車場	構内駐車場の利用申請 (大学ホームページ) 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)
10	キャッシュコーナー	ゆうちょ銀行ATM (学生会館2階)
11	集会室 、 体育館 、 テニスコート 、 グラウンド	利用申込が必要 電話 082-830-1522 (事務局学生支援室)



教育職員免許状について

1 専修免許状とは

専修免許状とは、一種免許状を現に有し、または一種免許状を取得するのに必要な単位をすでに修得し、修士の学位を有する者に授与される、上級の免許状です。

2 本学大学院において取得できる教育職員免許状の種類

中学校教諭一種免許状又は高等学校教諭一種免許状を取得している人は、免許状の種類に応じて専修免許状を取得することができます。本学大学院が認定を受けている専修免許状の種類は、次のとおりです。

大学院	専攻	中学校教諭	高等学校教諭
国際学研究科 博士前期課程	国際学専攻	英語 社会	英語 地理歴史 公民
情報科学研究科 博士前期課程	情報工学専攻 知能工学専攻 システム工学専攻		数学 情報
	医用情報科学専攻		情報
芸術学研究科 博士前期課程	造形芸術専攻	美術	美術 工芸

3 免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

「教育職員免許法」に定める法律上の最低修得単位数は、次のとおりです。本学大学院では、各研究科の定めるところにより、指定授業科目から24単位以上を修得する必要があります。

免許状の種類	基礎資格	最低修得単位数	備考
専修	修士の学位を有すること	83	24単位(83-59)以上 を大学院で修得する
一種	学士の学位を有すること	59	

4 指定授業科目

在学する研究科の履修案内(巻末資料・別表)を確認し、自専攻開講科目から指定授業科目24単位以上を修得してください。

5 取得・申請方法

大学院で必要な単位を修得し、都道府県の教育委員会に申請することで授与されます。

3月修了予定者については、本人に代わって本学が広島県教育委員会に申請します(一括申請)。修了予定年度の10月に開催される教員免許状申請ガイダンスに必ず出席し、必要な手続きを行ってください。免許状申請には、1件につき3,400円の手数料がかかります。

広島県教育委員会から授与された免許状は、修了式当日に交付します。

大学院関係諸規程

- (1) 広島市立大学大学院学則
- (2) 広島市立大学学位規程
- (3) 広島市立大学既修得単位認定規程
- (4) 広島市立大学学生の休学及び復学に関する規程
- (5) 広島市立大学学生の退学に関する規程
- (6) 公立大学法人広島市立大学学生の転学及び転学部等に関する規程
- (7) 広島市立大学学生の留学に関する規程
- (8) 広島市立大学派遣学生及び特別聴講学生に関する規程
- (9) 公立大学法人広島市立大学の授業料等に関する規程
- (10) 公立大学法人広島市立大学授業料等の減免に関する規程
- (11) 広島市立大学長期履修学生規程
- (12) 広島市立大学大学院におけるGPA制度に係る実施要綱

各研究科履修規程

- (1) 広島市立大学大学院国際学研究科履修規程
- (2) 広島市立大学大学院情報科学研究科履修規程
- (3) 広島市立大学大学院芸術学研究科履修規程
- (4) 広島市立大学大学院平和学研究科履修規程

2026年度入学生对象

国際学研究科の人材育成の目標及び各ポリシー

○ 人材育成の目標

国際学研究科博士前期課程は、次のような人材の育成を目標としています。

1. 人文科学分野（社会文化、言語文化）および社会科学分野（国際関係、公共政策、経営政策）における研究を通じて、国際社会とそれを構成するさまざまなコミュニティが直面している問題や課題を自ら発見し、解決に貢献できる能力を備えた人材
2. 独自性及び独創性を持って研究やさまざまな活動に携わることができる人材

国際学研究科博士後期課程は、次のような人材の育成を目標としています。

1. 国際社会研究および地域研究分野における高度な専門研究を通じて、国際社会とそれを構成するさまざまなコミュニティが直面している問題や課題を自ら発見し、専門的な立場から解決に貢献できる能力を備えた人材
2. 独自性及び独創性を持って研究やさまざまな活動に携わることができる人材

○ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

国際学研究科博士前期課程では、次のような人の入学を求めています。

[求める人物像]

1. 国際社会やそれを構成するさまざまなコミュニティが抱える諸課題について、専門的なアプローチを用いて課題の発見や解決に取り組もうとしている人
2. 研究分野に関する基礎知識および研究に必要な語学力を有し、専門的な知識を研究や職業に役立てる意欲を持つ人
3. 本研究科での学びを通じて、自己研鑽に努めたい人

[入学者選抜の基本方針]

国際学研究科では、求める人物像を踏まえ、次のような入学者選抜を行っています。

- ・一般入試（4月入学、10月入学）
- ・推薦入試（4月入学）
- ・社会人入試（4月入学、10月入学）
- ・海外在住者対象外国人留学生入試（4月入学、10月入学）
- ・海外学術交流協定大学推薦入試（4月入学、10月入学）

国際学研究科博士後期課程では、次のような人の入学を求めています。

[求める人物像]

1. 国際社会やそれを構成するさまざまなコミュニティが抱える諸課題について、高度な専門研究を深め、課題解決に取り組もうとしている人
2. 専門性を深めるために探求し、思考や議論を深めるための論理性や説得力を備えている人

3. 研究分野に関する高度な知識、および研究活動に十分な語学力を有し、さらに専門的な知識や研究能力を高める意欲を持つ人
4. 本研究科での専門研究を通じて、自己研鑽に努めたい人

[入学者選抜の基本方針]

国際学研究科では、求める人物像を踏まえ、次のような入学者選抜を行っています。

- ・一般入試（4月入学、10月入学）
- ・海外学術交流協定大学推薦入試（4月入学、10月入学）

○ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国際学研究科博士前期課程は、グローバル化時代の国際社会やそれを構成するさまざまなコミュニティの変化に対応できる能力を養成することを目的に、教育課程を次のように編成し、実践します。

1. 多様な文化・価値観を尊び、人間、社会、自然、平和に関する幅広い関心と知識を習得することを目的として、本学独自の全研究科共通科目群（広島市立大学国際学研究科、情報科学研究科、芸術学研究科及び平和学研究科の共通科目をいう。）を組み入れた教育課程とします。
2. 政治、経済、文化の基本的枠組みを念頭に置き、国際学研究科特有の特色を持った専門研究やさまざまな活動に携わることのできる能力の基礎として、人文・社会科学の基本的なアプローチ方法とアカデミック・スキルズ、および統計処理・分析に必要な基礎知識を習得する専門基礎科目を開設します。また、広島と世界の関連に着目した平和学コア科目群や、国際研究特講としてのピース・インターンシップ等を配置します。
3. 歴史、理論、政策の基本的な3領域を念頭におき、多様化・複雑化する現代社会の諸課題に理論的・実践的に取り組めるように、国際関係研究群、公共政策研究群、経営政策研究群、社会文化研究群、言語文化研究群を設置します。
人文科学分野では、多様化が進む社会の中で、言語や文化・社会に関連する専門研究を通じて、関連する分野で活躍できる実践的能力を高めることを目指します。社会科学分野では、国際関係、公共政策、経営政策に関する専門研究を通じて、問題解決能力や長期的・多角的視野での実践的能力を高めることを目指します。
また、これらの領域を横断する地域研究や平和研究に関わる多彩な教育・研究内容の授業科目を開設します。
4. 専門分野の枠組みを超えた問題意識を涵養するために、主指導教員と2人の副指導教員による研究指導を行い、国際関係特講や特別講義等の科目を開設します。

国際学研究科博士後期課程は、国際社会や地域社会における多彩な側面を正確に把握し、専門的な立場から国際社会や地域社会が直面している問題や課題を自ら発見し、解決に貢献できる能力を備えた人材の育成を目的として、教育課程を次のように編成し、実施します。

1. 人文・社会科学に関する高度な学識と理論に基づいて、国際社会や地域社会が抱える諸課題を的確に分析し考察するために、国際社会研究分野と地域研究分野の二つの研究分野から教育課程を編成します。
2. それぞれの専門分野に応じた演習科目（国際社会研究演習 I, II, III, IV および地域研究演習 I, II, III, IV）を中心に教育課程を編成し、徹底した個別研究指導を行います。また、博士学位論文執筆計画書（1年次）や研究報告書（2年次）を踏まえた調査および研究を通じて、学位論文の執筆を指導します。
3. 専門分野における高度な研究を実施するために、主指導教員と2人の副指導教員による研究指導を行います。

○ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国際学研究科博士前期課程は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下のいずれかの学識・能力を身に付けた上で、修士論文あるいは課題研究報告書を提出して審査に合格した学生に対して修了を認定し、修士（学術）の学位を授与します。

1. 人文科学分野（社会文化、言語文化）および社会科学分野（国際関係、公共政策、経営政策）における十分な学識と、国際社会や地域社会が抱える諸課題を多面的かつ的確に分析し考察できる能力
2. 国際学研究科における学修を通じて研鑽し身に付けた学識と、文系実務者としての能力

国際学研究科博士後期課程は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の学識・能力を身に付けた上で、博士学位論文を提出して審査に合格した学生に対して修了を認定し、博士（学術）の学位を授与します。

1. 国際社会研究や地域研究を通じて修得した、世界各地域を対象とした政治・経済・文化・言語に関する高度な学識と、国際社会や地域社会が抱える諸課題を理論に基づき的確に分析し考察できる能力
2. 研究者として自立できる研究能力、あるいは独自性の高い研究成果を達成できる能力
3. 課程修了見込者及び課程修了者と同等以上の学力があると認められ、博士学位請求論文を提出して審査に合格した者

I 国際学研究科博士前期課程の特色

○ 教育研究の特色

(1) 学際的教育・研究に適した授業科目の編成

今日の国際社会の多様化したニーズに応え、グローバルな課題に対応するために、より柔軟で学際的教育・研究に適した授業科目の編成を目指しています。授与する修士学位は、「修士（学術）」です。

本研究科の教育課程は、全研究科共通科目、研究科開設科目から構成されます。研究科開設科目では、専門基礎科目と「国際関係」、「公共政策」、「経営政策」、「社会文化」、「言語文化」の5つの研究群を設置するとともに、これらの領域を横断しながら、研究対象地域を多角的に研究、分析する「地域研究」および人類の平和的共存をさまざまな角度から追及する「平和研究」にかかわる多彩な内容の授業科目を開設しています。

(2) 国際化への対応

授業科目の履修期間は、留学生また外国からの帰国者などの受け入れに対する便宜等を考慮して、半年単位のセメスター制を導入しています。

(3) 社会人・実務者など多様な学生の受け入れ体制

社会人・実務者などの学びを支援し、社会人が在職のまま本研究科を修了することを可能にする一助として、上記のセメスター制度と合わせて、教員との相談に応じて、夜間その他特定の時間または時期において授業又は研究指導等を受けることができます。場合によっては、オンラインで授業を受講することも可能です。また、長期履修制度（3年または4年）も導入しています。

II 入学から修了まで

1 主指導教員と副指導教員の決定

入学志願票を提出する時に記載した「志望指導教員」が、原則として入学後は主指導教員となります。学生は、主指導教員から授業科目の履修についての指導と学位取得のための研究指導を受けます。社会人で、夜間の授業やオンラインによる授業の受講を希望する場合は、予め主指導教員と履修の方法、受講時間等について相談してください。

副指導教員については、主指導教員と相談の上、副指導教員として希望する専任教員2名以内に関連する研究科目の中から選び、その教員の了承を得て「副指導教員希望届」を提出してください。学生は、副指導教員から授業科目の履修や研究についての助言を受けます。「副指導教員希望届」の提出期限は、春季入学者は7月末日、秋季入学者は翌年1月末日です。

2 履修登録等について

履修登録、履修確認及び履修取消については、【全研究科共通資料】「4 履修登録」を参照の上、「いちぼる (UNIPA)」で行ってください。

履修科目の決定にあたっては、主指導教員が履修を指定する科目がありますので、必ず主指導教員と相談の上、科目を選択し登録してください。原則として、4月に前・後期両方の履修登録を行います。

また、履修を取り消す場合は、主指導教員の承認が必要です。

3 他研究科開設科目の履修について

研究において教育上有益と認められる場合は、平和学研究科開設科目と芸術学研究科開設科目を履修することができます (平和学研究科は「平和学特殊演習」を除く。芸術学研究科は「必修科目」「選択必修科目 (造形総合研究) 及び (造形特別研究) を除く)。履修を希望する場合は、履修登録期間中に、主指導教員及び授業科目の担当教員の承認を得た上で、「他研究科開設科目履修届」を教務・学部運営室に提出してください。履修をした科目は、15単位を超えない範囲で主指導教員指定科目に含めることができます。

4 修了必要単位数について

修了に必要な単位数は30単位以上で、その内訳は以下のとおりです。

<修士 (学術) の学位取得のために満たさなければならない要件>

全研究科共通科目	2 単位以上
研究科開設科目	24 単位以上
主指導教員指定科目	14 単位以上
自由選択科目	8 単位
専門基礎科目	2 単位
計	30 単位以上

- ※ 主指導教員指定科目に「専門基礎科目」、「平和学コア科目」及び「ピース・インターンシップ、またはピース・インターンシップ I または II」を含むことはできない。
- ※ 社会人学生または留学生で、全研究科共通科目及び専門基礎科目を履修することが困難である場合は、「単位振替届」を教務・学部運営室に提出し、主指導教員指定科目に振り替えることができる。
- ※ 2023 年度より芸術学研究科開設科目 (基礎理論科目と選択科目) が履修できる。ただし平和学研究科開設科目と併せて 15 単位を超えない範囲でのみ主指導教員指定科目に含めるものとする。

5 修了要件と修業年限及び長期履修制度について

博士前期課程を修了するためには、大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文あるいは課題研究報告書を在学期間中に提出して審査および口述試験に合格すれば、博士前期課程の修了となります。ただし、特に短期間で優秀な研究成果が期待できると主指導教員が判断した場合には、1年以上の在学をもって、修了を認めることがあります。

また、在学中に、研究科長の許可を受けて外国の大学の大学院へ留学することができます。その場合の留学期間は修業年限に含めることができます。ただし、休学して留学する場合の休学期間は修業年限に含めることはできません。

【長期履修学生制度について】

社会人入試制度により入学した学生は、標準修業年限2年を、3年または4年として計画的に教育課程を修了することができる長期履修制度を利用することができます。この制度を利用すると、標準修業年限の授業料の総額を、長期履修期間に応じて支払うことになります。希望する学生は、「12 提出書類、手続き等一覧」記載の提出期限内に所定の手続きを行ってください。ただし、長期履修学生であっても、在学年限は4年であり、最長4年の長期履修期間内に修了できないことが、退学または除籍につながるため、十分に注意してください。

6 研究計画書の作成と提出について

学生は、主指導教員と相談の上、研究計画書を作成して事務局教務・学部運営室に提出してください。研究計画書の提出にあたっては、主指導教員および副指導教員の承認を得てください。

研究計画書の提出期限は、春季入学者の場合は2年次前期の履修登録最終日までに、秋季入学者の場合は2年次後期の履修登録最終日までに行ってください。

7 「修士論文」と「課題研究報告書」について

本研究科では、入学時に「修士論文」あるいは「課題研究報告書」のいずれかを選択します。いずれも、博士前期課程2年間で学んだ基本的な知識や研究の成果、また論文作成技術の習得度などをみるためのものと位置づけられています。

この制度の特徴と提出手続きの詳細は以下のとおりです。

	修士論文	課題研究報告書
内容	学術的貢献度が高いもの 学術論文の形式（構成・参考文献等） 【要件】 ・ 先行研究のサーベイ ・ 学術研究面での独自性 ・ 論理的な議論の展開	資料価値が高いもの 学術論文の形式（構成・参考文献等） 【要件】 ・ 綿密な調査分析や記録 ・ 特定の団体・事業などに関する事例研究や、特定の課題に関する検討 ・ 論理的な議論の展開
字数(目安)	【和文】 40,000 字以上 【英文】 20,000 語以上	【和文】 30,000 字以上 【英文】 15,000 語以上
書式	(1) 原則としてA4判・横書きとする。 (2) 和文：1 ページあたり1行43字×30行 (3) 英文：1 ページあたり80字×30行 (4) ページ番号を下中央に入れる。 (5) 上下左右2.5cm程度の余白をとる。	
提出書類	(1) 修士論文提出票 1部 (2) 修士論文審査願 1部 ※ 主指導教員の承認印のあるもの (3) 修士論文 3部 (4) 修士論文要旨 4部 ※ 要旨は原則として日本語で作成	(1) 課題研究報告書提出票 1部 (2) 課題研究報告書審査願 1部 ※ 主指導教員の承認印のあるもの (3) 課題研究報告書 3部 (4) 課題研究報告書要旨 4部 ※ 要旨は原則として日本語で作成
	論文等3部は、ファイル等に綴じ、ファイルの表紙には論文題目、学籍番号、提出者氏名、主指導教員名、副指導教員名、提出年月日を記入すること。	
提出期限	【春季入学者】 12月第3週の金曜日午後5時 【秋季入学者】 6月第3週の金曜日午後5時	
提出先	事務局教務・学部運営室	

- ・ このほか、製本用修士論文等の提出が必要です。詳細は掲示の指示に従ってください。
- ・ **博士後期課程への進学を希望する場合や、研究者を志望する場合は、「修士論文」を作成していることを推奨します。**大学院入学後に選択の変更を希望する場合は、主指導教員、副指導教員の同意を得たうえで、修士論文等提出期限までに変更願を提出し、研究科委員会の承認を得てください。
- ・ 一度提出した修士論文等の取り下げは、口述試験が実施される前のみ可能です。その場合は、主指導教員の承認を得た上で、研究科長に修士論文等取り下げ願を提出し、研究科委員会の承認を得てください。

8 修士論文等審査基準について

主指導教員および副指導教員（2名）で編成する「修士論文等審査委員会」が、修士論文等の審査と口述試験を行ないます。副指導教員が1名の場合には、関連する研究科目から他の1名の教員が主指導教員の推薦によって審査委員会に加わります。

審査は、次にかかげる項目を総合的に考慮して行います。

【修士論文審査基準】

(1) 研究テーマ及び問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に妥当性があり、学術的あるいはまた社会的意義が認められること。

(2) 研究方法の適切性

先行研究や関連資史料・データ等をふまえ、研究テーマ及び問題設定にふさわしい研究方法によって考察・分析がなされていること。

(3) 論旨の妥当性

論旨の進め方に一貫性があり、整合的な結論が導出されていること。

(4) 独創性

研究テーマ、問題設定、研究方法、分析、結論等に一定の独創性が認められること。

(5) 論文作成能力

文章表現が適切で、学術論文としての構成・体裁が整っていること。

(6) 研究倫理の遵守

研究の立案・遂行、研究データの保管、研究成果の発表に関して、適切な倫理的配慮がなされていること、また学内及び関連学会等の倫理基準等を遵守の上、研究がなされていること。

【課題研究報告書審査基準】

(1) 研究テーマ及び問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に妥当性があり、学術的あるいはまた社会的意義が認められること。

(2) 研究方法の適切性

研究テーマ及び問題設定にふさわしい研究方法によって、関連資史料・データ等が整理・分析されていること。

(3) 論旨の妥当性

論旨の進め方に一貫性があり、整合的な結論が導出されていること。

(4) 高い資料的価値

調査分析・記録、事例研究や特定課題の設定等に高い資料的価値が認められること。

(5) 論文作成能力

文章表現が適切で、学術論文としての構成・体裁が整っていること。

(6) 研究倫理の遵守

研究の立案・遂行、研究データの保管、研究成果の発表に関して、適切な倫理的配慮がなされていること、また学内及び関連学会等の倫理基準等を遵守の上、研究がなされていること。

9 学位について

修了必要単位数を満たした上で、修士論文等が審査に合格すると、研究科委員会の判定を経て**修士（学術）**の学位が授与されます。

10 教育職員免許状について

中学校教諭一種免許状（英語又は社会）と高等学校教諭一種免許状（英語、地理歴史又は公民）を取得している者は、学則別表第3(1)～(4)の科目24単位を修得することにより、英語、社会、地理歴史又は公民の専修免許状を取得することができます。

（巻末の学則別表を参照）

国際学研究科で取得できる教育職員免許状は次のとおりです。

中学校教諭	専修免許状	英語
中学校教諭	専修免許状	社会
高等学校教諭	専修免許状	英語
高等学校教諭	専修免許状	地理歴史
高等学校教諭	専修免許状	公民

11 単位認定について

他の大学院での講義の受講も、本学で修得したのものとして単位の認定をする制度があります。学術交流協定を締結している大学、とくにハワイ大学で提供されている次表中の科目が単位認定の対象になります。

ハワイ大学マノア校 Peace Studies (PACE)提供科目（本学で単位認定が可能な科目）

コース番号	科目名
PACE 412	Gandhi, King and Nonviolence
PACE 413	Terrorism
PACE 477	Culture and Conflict Resolution
PACE 478	International Law and Disputes
PACE 647	Mediation: Theory and Practice
PACE 668	Facilitation: Facilitating Community and Organizational Change

※ PACE は Peace and Conflict Education の略、その後がコース番号です。

※ すべて3単位科目です。

※ 次のウェブサイトにて授業の概要がまとめられています。

<https://manoa.hawaii.edu/catalog/courses-overview/>

他大学院で修得した単位は最大8単位まで修了要件として認められますが、事前に主指導教員の上が必要が必要です。

12 提出書類、手続き等一覧

○長期履修制度に係るもの（対象：社会人に特定した入試制度により入学した者）

文書名	提出期間・期限等	提出先
長期履修学生申請書 (入学時から希望する場合)	春季入学者：4月末日 秋季入学者：10月末日	教務・学部 運営室
長期履修学生申請書 (中途から希望する場合)	前期から希望する場合：前年度の2月末日 後期から希望する場合：当該年度の8月末日	
長期履修期間変更申請書 (変更は1回限り。最終年次に在学 する学生は変更できない。)	前期から希望する場合：前年度の2月末日 後期から希望する場合：当該年度の8月末日	

○研究指導及び修士論文等審査に係るもの、修士論文等審査日程

学年	内 容	期間・期限・時期等		提出先
		春季入学者	秋季入学者	
1年	専門基礎科目の履修	前期又は後期	後期又は前期	—
	副指導教員希望届の提出	7月末日	1月末日	—
2年	研究計画書の提出	前期履修登録 最終日	後期履修登録 最終日	教務・学部 運営室
	修士論文等及び要旨の提出	12月第3週の 金曜日午後5時	6月第3週の 金曜日午後5時	
	修士論文等審査委員会の設置	12月	6月	—
	修士論文等審査委員会による審査	1月	7月	—
	修士論文等審査報告・研究科委員会による修士学位授与の承認	2月	7月	—
	製本用修士論文等の提出	2月末日	8月末日	教務・学部 運営室
学位授与		3月	9月	—

- ※ 修士論文等の提出にあたっては、「7 『修士論文』と『課題研究報告書』について」及び掲示をよく確認すること。
- ※ 修了要件等を満たしていれば（または満たす見込みであれば）、「4月入学」及び「10月入学」のいずれに示された日程であっても、修士論文等を提出し、審査を受けることができる。

○必要に応じ随時提出するもの

手 続 き	提出期間・期限等	提出方法・提出先
指導教員変更願	必要となった場合速やかに	教務・学部運営室
修士論文・課題研究報告書 変更願	随時（ただし修士論文等提出時まで）	
単位振替届(*)	随時（提出の条件については(*)のとおり）	

- (*) 単位振替届は、①社会人選抜入試により入学した者 または ②日本語を母語とせず、英語で修士論文または研究課題報告書を作成する者で、全研究科共通科目及び専門基礎科目を履修することが困難である場合に届け出ることができる。ただし、原則として最終年次に在学するものは届け出ることができない。

13 授業科目一覧表

授業科目	◎日英可 ○英のみ	地域 研究	担当者	期	単位数
全研究科共通科目群「21世紀の人間と社会」					
人間論A（人文・社会科学）			上尾 真道	前期	2単位
人間論B（自然科学）			曾雌 崇弘	前期 集中	2単位
国際関係と平和			石田 敦	後期	2単位
ヒロシマと核の時代	◎		佐藤 史郎	前期	2単位
日本論			山口 えり	前期	2単位
科学技術と倫理			八重樫 徹	前期 集中	2単位
情報と社会			河又 貴洋、桑原 俊	前期 集中	2単位
道具論			(開講せず)	後期	2単位
都市論			(開講せず)	後期	2単位
専門基礎科目					
学術研究の進め方			[代]高久 賢也、太田 育子 佐藤 敦郎、寺井 里沙	前期	2単位
学術研究のための基礎統計			山根 史博	後期	2単位
平和学コア科目					
平和学概論	◎		吉田 晴彦 他	前期	2単位
広島と世界			井上 泰浩 他	後期	2単位
HIROSHIMA and PEACE for Graduate Students	○		古澤 嘉朗	前期	2単位
国際関係研究群					
国際政治理論	◎		秦野 貴光	前期	2単位
国際安全保障理論	◎		秦野 貴光	後期	2単位
紛争解決論	◎		古澤 嘉朗	前期	2単位
平和構築論	◎		古澤 嘉朗	後期	2単位
国際協力論Ⅰ			吉田 晴彦	前期	2単位
国際協力論Ⅱ			吉田 晴彦	後期	2単位
日本政治外交論Ⅰ		○	武田 悠	前期	2単位
日本政治外交論Ⅱ		○	武田 悠	後期	2単位
中国国際関係史Ⅰ	◎	○	飯島 典子	前期	2単位
中国国際関係史Ⅱ	◎	○	飯島 典子	後期	2単位
東北アジア政治論Ⅰ		○	金 栄鎬	前期	2単位
東北アジア政治論Ⅱ		○	金 栄鎬	後期	2単位
東南アジア政治論Ⅰ		○	板谷 大世	前期	2単位
東南アジア政治論Ⅱ		○	板谷 大世	後期	2単位
ヨーロッパ国際関係史Ⅰ		○	大庭 千恵子	前期	2単位
ヨーロッパ国際関係史Ⅱ		○	大庭 千恵子	後期	2単位
アメリカ政治外交論Ⅰ		○	長 史隆	前期	2単位
アメリカ政治外交論Ⅱ		○	長 史隆	後期	2単位
ロシア国際関係史Ⅰ	◎	○	斎藤 祥平	前期	2単位
ロシア国際関係史Ⅱ	◎	○	斎藤 祥平	後期	2単位

	授業科目	◎日英可 ○英のみ	地域 研究	担当者	期	単位数
研 究 科 開 設 科 目	公共政策研究群					
	国際法Ⅰ			太田 育子	前期	2単位
	国際法Ⅱ			太田 育子	後期	2単位
	経済政策論Ⅰ			(開講せず)	前期	2単位
	経済政策論Ⅱ			(開講せず)	後期	2単位
	行政学Ⅰ			佐藤 敦郎	前期	2単位
	行政学Ⅱ			佐藤 敦郎	後期	2単位
	国際開発学	◎		目黒 紀夫	前期	2単位
	開発社会学／人類学	◎		目黒 紀夫	後期	2単位
	非営利組織論			金谷 信子	前期	2単位
	社会政策論			金谷 信子	後期	2単位
	環境経済学Ⅰ			山根 史博	前期	2単位
	環境経済学Ⅱ			山根 史博	後期	2単位
	教育経営学Ⅰ			(開講せず)	前期	2単位
	教育経営学Ⅱ			(開講せず)	後期	2単位
	比較国際教育学			卜部 匡司	前期	2単位
	持続可能な開発のための教育（ESD）論			卜部 匡司	後期	2単位
	情報メディア論Ⅰ	◎		井上 泰浩	前期	2単位
	情報メディア論Ⅱ	◎		井上 泰浩	後期	2単位
	健康心理学Ⅰ			山口 光明	前期	2単位
	健康心理学Ⅱ			山口 光明	後期	2単位
	経営政策研究群					
	国際経営論Ⅰ			李 在鎬	前期	2単位
	国際経営論Ⅱ			李 在鎬	後期	2単位
	マーケティング論Ⅰ			李 玲	前期	2単位
	マーケティング論Ⅱ			李 玲	後期	2単位
	人的資源管理論Ⅰ			山崎 雅夫	前期	2単位
	人的資源管理論Ⅱ			山崎 雅夫	後期	2単位
	多国籍企業論Ⅰ	◎		Nurhaizal Azam Arif	前期	2単位
	多国籍企業論Ⅱ	◎		Nurhaizal Azam Arif	後期	2単位
	国際金融論Ⅰ			高久 賢也	前期	2単位
	国際金融論Ⅱ			高久 賢也	後期	2単位
	会計学Ⅰ			井手吉 成佳	前期	2単位
	会計学Ⅱ			井手吉 成佳	後期	2単位
公会計論Ⅰ			城多 努	前期	2単位	
公会計論Ⅱ			城多 努	後期	2単位	
日本産業論Ⅰ		○	(開講せず)	前期	2単位	
日本産業論Ⅱ		○	(開講せず)	後期	2単位	
経営政策特講Ⅰ			(開講せず)	前期	2単位	
経営政策特講Ⅱ			(開講せず)	後期	2単位	
国際商務論Ⅰ	◎		寺井 里沙	前期	2単位	
国際商務論Ⅱ	◎		寺井 里沙	後期	2単位	

授業科目		◎日英可 ○英のみ	地域 研究	担当者	期	単位数
研 究 科 開 設 科 目	社会文化研究群					
	現代思想Ⅰ			上尾 真道	前期	2単位
	現代思想Ⅱ			上尾 真道	後期	2単位
	現代社会論Ⅰ			湯浅 正恵	前期	2単位
	現代社会論Ⅱ			湯浅 正恵	後期	2単位
	ジェンダー論Ⅰ		○	Ulrike Wöhr	前期	2単位
	ジェンダー論Ⅱ		○	Ulrike Wöhr	後期	2単位
	歴史資料研究	◎	○	山口 えり	前期	2単位
	日本文化史研究	◎	○	山口 えり	後期	2単位
	ラテンアメリカ文化論Ⅰ		○	吉江 貴文	前期	2単位
	ラテンアメリカ文化論Ⅱ		○	吉江 貴文	後期	2単位
	中東イスラーム社会論Ⅰ		○	田浪 亜央江	前期	2単位
	中東イスラーム社会論Ⅱ		○	田浪 亜央江	後期	2単位
	アフリカ社会論		○	田川 玄	前期	2単位
	アフリカ文化論		○	田川 玄	後期	2単位
	言語文化研究群					
	英語教育論Ⅰ			奥西 有理	前期	2単位
	英語教育論Ⅱ			奥西 有理	後期	2単位
	日本語教育論Ⅰ			重田 美咲	前期	2単位
	日本語教育論Ⅱ			重田 美咲	後期	2単位
	応用言語論Ⅰ			森田 光宏	前期	2単位
	応用言語論Ⅱ			森田 光宏	後期	2単位
	翻訳論Ⅰ			横山 知幸	前期	2単位
	翻訳論Ⅱ			横山 知幸	後期	2単位
	イギリス文学・文化論Ⅰ		○	原 雅樹	前期	2単位
	イギリス文学・文化論Ⅱ		○	原 雅樹	後期	2単位
	フランス文学・文化論Ⅰ		○	大場 静枝	前期	2単位
	フランス文学・文化論Ⅱ		○	大場 静枝	後期	2単位
	American Literature and CultureⅠ	○	○	Michael Gorman	前期	2単位
	American Literature and CultureⅡ	○	○	Michael Gorman	後期	2単位
	Cross-cultural Psychology and CommunicationⅠ	○		(開講せず)	前期	2単位
	Cross-cultural Psychology and CommunicationⅡ	○		(開講せず)	後期	2単位
	対照言語学Ⅰ			藤原 優美	前期	2単位
対照言語学Ⅱ			藤原 優美	後期	2単位	
英語学習論Ⅰ			天野 修一	前期	2単位	
英語学習論Ⅱ			天野 修一	後期	2単位	

授業科目		◎日英可 ○英のみ	地域 研究	担当者	期	単位数
研 究 科 開 設 科 目	国際研究特講					
	国際研究特講Ⅰ			(博士前期課程担当全教員)	前期	2単位
	国際研究特講Ⅱ			(博士前期課程担当全教員)	後期	2単位
	ピース・インターンシップⅠ	◎		(博士前期課程担当全教員)	前期	2単位
	ピース・インターンシップⅡ	◎		(博士前期課程担当全教員)	後期	2単位
	特別講義					
	特別講義A			(博士前期課程担当全教員)	前期	2単位
	特別講義B			(博士前期課程担当全教員)	後期	2単位
	特別演習					
	特別演習Ⅰ			(博士前期課程担当全教員)	前期	2単位
特別演習Ⅱ			(博士前期課程担当全教員)	後期	2単位	

※英語表記(○のみ)になっている授業科目は、英語のみで授業を行います。
◎の授業科目は、日本語と英語の両方での授業が可能です。

※広島・長崎講座について

広島市と長崎市では、被爆者の「他の誰にもこんな思いをさせてはいけない」というメッセージの意味を学術的に整理・体系化し、普遍性のある学問として次代を担う若い世代に伝えていくため、国内外の大学に広島・長崎講座を開設・普及することに取り組んでいます。

広島・長崎講座は、被爆者のメッセージの意味を学問的に学習することにより、核兵器の悲惨さや非人道性を認識し、被爆者がなぜ報復ではなく和解の道を歩んだかについて正しく理解することを目的としています。本研究科では、以下の3科目が「広島・長崎講座」として認定されています。

- ・ヒロシマと核の時代
- ・広島と世界
- ・HIROSHIMA and PEACE for Graduate Students

I 国際学研究科博士後期課程の特色

○ 教育研究の特色

(1) 国際性・学際性の観点からの教育研究

国際社会研究分野と地域研究分野の両分野の研究科目は、国境や国家という単位を越えてグローバルな視点から、人類益や地球益に立脚した地球規模のトランスナショナルな発想を基本とします。

また、学際性という観点から、文化、政治、経済や人文、社会、自然といった既存の学問分野や研究領域の枠にとらわれることなく、高度な専門性を維持しながら、より広範な学問的視野から教育研究が行えるよう配慮しています。

(2) 社会人・実務者など多様な学生の受け入れ

博士後期課程では、博士後期課程のために開講する科目を必要に応じて夜間に実施するなど、高度な専門の学術知識の習得を目指す社会人が在職のまま大学院に進学し得るよう配慮しています。

(3) 留学生の積極的な受け入れ

わが国の国際化の進展に伴い、今後教育面での国際交流のさらなる促進が期待されています。本研究科では諸外国からの留学生（交流協定を締結した大学から推薦された留学生を含む。）を積極的に受け入れ、教育・研究面での国際社会への貢献を目指します。

(4) 徹底的な個別的研究指導

博士後期課程では、研究分野の演習として、1年次に「国際社会研究演習I、II」及び「地域研究演習I、II」（各2単位）、2年次に「国際社会研究演習III、IV」及び「地域研究演習III、IV」（各2単位）を開設します。学生は主指導教員の指導を受けて、これらの演習のうちから4科目（8単位）を選択して履修します。主・副指導教員は、博士学位請求論文の作成に向け、研究分野の演習を通して徹底した個別的研究指導を行います。

II 入学から修了まで

1 主指導教員と副指導教員の決定

博士後期課程においては主指導教員が徹底した個別的な研究指導を行い、副指導教員はこれを補佐します。主指導教員は、入学志願票を提出するときに記載した「志望指導教員」がなります。副指導教員については、主指導教員と相談の上、副指導教員として希望する教員2名以上を選び、その教員の下承を得て「副指導教員希望届」を提出してください。

「副指導教員希望届」の提出期限は、春季入学は7月末日、秋季入学は翌年1月末日です。

学生は、主指導教員から学位取得のための研究指導を受けます。また、副指導教員からも研究についての助言を受けます。

なお、学生は、指導教員の変更を希望する場合には、主指導教員及び副指導教員の承認を得たうえで所定の「指導教員変更願」を研究科長に提出することができます。研究科長は「指導教員変更願」が提出された場合には、主指導教員の所見等を参考にし、指導教員の変更を認めることができます。

2 履修登録等について

履修登録、履修確認及び履修取消については、【全研究科共通資料】「4 履修登録」を参照の上、「いちぼる(UNIPA)」で行ってください。

履修科目の決定にあたっては、主指導教員が履修を指定する科目がありますので、必ず主指導教員と相談の上、科目を選択し登録してください。原則として、4月に前・後期両方の履修登録を行います。

また、履修を取り消す場合は、主指導教員の承認が必要です。

3 修了必要単位数について

博士後期課程における修了必要単位数は8単位です。

主指導教員の指導により、「国際社会研究演習」又は「地域研究演習」のうちから4科目(8単位)を選択して履修します。

4 修了要件と修業年限及び長期履修制度について

博士後期課程を修了するためには、原則として本課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ博士學位論文の審査と最終試験に合格しなければなりません。

【長期履修学生制度について】

標準修業年限3年を、4年、5年または6年として計画的に教育課程を修了することができる長期履修制度を利用することができます。この制度を利用すると、標準修業年限の授業料の総額を、長期履修期間に応じて支払うことになります。希望する学生は、「11 提出書類、手続き等一覧」記載の提出期限内に所定の手続きを行ってください。ただし、長期履修学生であっても、在学年限は6年であり、最長6年の長期履修期間内に修了できないことが、退学または除籍につながるため、十分に注意してください。

5 研究報告書の提出及び博士候補者の認定について

- (1) 学生は主指導教員の指導に基づき、1年次の終わりまでに所定の様式の「博士学位論文執筆計画書」を事務局教務・学部運営室に提出します。長期履修学生は、履修期間に応じて「研究報告書」の提出時期を明記してください。ただし、「研究報告書」は最終年次に進むまでに提出する必要があります。
- (2) 学生は主指導教員の指導に基づき、「研究報告書」を提出します。

提出期限：【春季入学者】2年次10月末日まで 【秋季入学者】2年次4月末日まで

※ 長期履修学生は、前記に準じて提出期限を設定してください。

提出先：事務局教務・学部運営室

用紙：A4

文字数：日本語：10,000字（10枚）程度（図表を含む。資料は別とする。）

英語：4,000語（12枚）程度（図表を含む。資料は別とする。）

表紙：学籍番号、名前、主・副指導教員名、提出年月日を明記。

部数：6部

研究テーマ：学位論文の題名。

研究の概要：目的、論文の全体的な構成。

関連する先行研究：国内外の先行研究のレビュー。

研究の特色・独創性：先行研究に照らして何がユニークなのか。

研究方法：理論・事例研究、文献・実地調査などの方法。

研究の経過または準備状況：研究はどこまで進展しているか。

- (3) 研究報告書を所定の期限までに提出できない場合は、「研究報告書未提出の理由書」（以下、「理由書」という。）を提出してください。提出延期が認められた場合は、当初予定の半期後の期限までに「研究報告書」を提出してください。期限延期後も研究報告書を提出ができない場合は、さらに「理由書」の提出が出来ますが、原則3回までです。
- (4) 学生は、「研究報告書」の提出後、口頭発表会を行います。主・副指導教員を含む評価者は、学生から提出された「研究報告書」及び口頭発表会の内容を審査し、A B C Dの4段階で評価します(Dは不合格)。その結果を主指導教員が研究科委員会に報告します。研究科委員会はその報告を受けて、その学生が博士候補者として博士学位論文の作成に着手する資格を認定します。

6 博士学位論文の作成及び博士学位論文予備審査について

博士学位論文は、自立した研究者としてふさわしい専門的な学術知識、調査能力、論文作成技法などの達成度をみるためのものと位置づけられています。修士論文よりレベルが高い独創的な発想や研究方法によって作成され、学問的業績として専門学界から評価される研究内容のものでなければなりません。また、字数や枚数の制限は特に設けていません。

博士学位論文の提出手続きは以下のとおりです。

- (1) 博士候補者となった者は、主指導教員の指導に基づき博士学位論文を作成し、博士論文予備審査の申請を行うこととなります。博士論文予備審査の申請の締切日は、前期は4月末日、後期は10月末日です。
- (2) 博士後期課程学位審査研究科委員会は、申請に基づき、当該博士候補者の主指導教員を含む研究科委員会の委員3人以上から成る「博士論文予備審査委員会」を設置します。
- (3) 「博士論文予備審査委員会」の委員長は、審査の結果を博士後期課程学位審査研究科委員会に報告します。博士後期課程学位審査研究科委員会では、それを受けて博士候補者が博士学位授与の申請をすることを許可します。

博士学位論文の予備審査の結果不合格となった者は、次回以降の予備審査に改めて申請することができます。

- (4) なお、一度提出した博士学位論文の取り下げは、口述試験が実施される前のみ可能です。その場合は、主指導教員の承認を得た上で、研究科長に博士学位論文取り下げ願を提出し、博士後期課程学位審査研究科委員会の承認を得てください。

7 博士学位論文の審査及び最終試験の実施について

- (1) 博士後期課程学位審査研究科委員会は、博士候補者に博士学位論文の受理を認めた場合は、「博士論文審査委員会」を設置します。「博士論文審査委員会」は、上記の予備審査委員会の委員に学内外の専門家1人以上を加えて編成します。
- (2) 博士論文審査委員会は、1年以内に博士学位論文の審査と最終試験（口述試験とその他審査委員会が必要とする試験）を実施し、その結果を博士後期課程学位審査研究科委員会に報告します。
- (3) なお、一度提出した博士学位論文の取り下げは、口述試験が実施される前のみ可能です。その場合は、主指導教員の承認を得た上で、研究科長に博士学位論文取り下げ願を提出し、博士後期課程学位審査研究科委員会の承認を得てください。

8 博士学位授与の可否の決定について

研究科委員会では、「博士論文審査委員会」の結果報告を受けて審議を行い、博士学位授与の可否を決定します。

9 博士論文審査基準について

次にかかげる項目を総合的に考慮し、審査を行います。

1. 研究テーマ及び問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に妥当性があり、学術的あるいはまた社会的意義が認められること。

2. 研究方法の適切性

先行研究や関連資史料・データ等をふまえ、問題設定にふさわしい研究方法によって考察・分析がなされていること。

3. 論旨の妥当性

論旨の進め方に一貫性があり、整合的な結論が導出されていること。

4. 独創性

研究テーマ、問題設定、研究方法、分析、結論等に一定の独創性が認められること。

5. 論文作成能力

文章表現が適切で、博士論文としての構成・体裁が整っていること。

6. 研究倫理の遵守

研究の立案・遂行、研究データの保管、研究成果の発表に関して、適切な倫理的配慮がなされていること、また学内及び関連学会等の倫理基準等を遵守の上、研究がなされていること。

7. 研究者として自立的また自律的に研究活動を遂行していける能力、高度な専門的業務に従事していける能力、またはその基礎となる豊かな学識を有すると認められること。

10 学位について

修了必要単位数を満たした上で、博士論文が上記の審査及び最終試験に合格すると、研究科委員会の判定を経て博士（学術）の学位が授与されます。

11 提出書類、手続き等一覧

○長期履修制度に係るもの（対象：社会人に特定した入試制度により入学した者）

文 書 名	提出期間・期限等	提 出 先
長期履修学生申請書 (入学時から希望する場合)	春季入学者：4月末日 秋季入学者：10月末日	教務・学部 運営室
長期履修学生申請書 (中途から希望する場合)	前期から希望する場合：前年度の2月末日 後期から希望する場合：当該年度の8月末日	
長期履修期間変更申請書 (変更は1回限り。最終年次に在学する学生は変更できない。)	前期から希望する場合：前年度の2月末日 後期から希望する場合：当該年度の8月末日	

○必要に応じ随時提出するもの

手 続 き	提出期間・期限等	提 出 先
指導教員変更願	必要となった場合速やかに	教務・学部運営室

○研究指導及び学位論文審査に係るもの、学位論文審査日程
 博士学位論文等の提出にあたっては、「II 入学から修了まで」及び掲示をよく確認すること。

学年	内容		期間・期限・時期等		提出先
			春季入学者	秋季入学者	
1年	副指導教員希望届の提出		7月末日	1月末日	教務・学部 運営室
	博士学位論文執筆計画書の提出		3月末日	9月末日	
2年	報告書 研究	研究報告書（または研究報告書未提出の理由書）の提出（※1）（※2）	10月末日	4月末日	—
		研究報告書の審査・博士学位論文着手認定	11月	5月	
3年	学位論文予備審査	博士学位論文予備審査申請	10月末日	4月末日	教務・学部 運営室
		予備審査委員会構成員名簿の提出・予備審査委員会の設置	11月	5月	—
		予備審査	11月中旬～ 12月上旬	5月中旬～ 6月上旬	—
		予備審査委員会の審査報告に基づく研究科委員会による博士学位論文審査申請の許可	12月	6月	—
	学位論文本審査	博士学位論文審査申請（※3）	1月中旬	7月上旬	教務・学部 運営室
		審査委員会構成員名簿の提出・審査委員会の設置	1月	7月	—
		審査委員会による審査・最終試験	1月～2月	7月～8月	—
		審査委員会の審査報告に基づく研究科委員会による博士学位授与の承認	3月中旬	9月中旬	—
	博士学位論文（電子データ）の提出（※4）		3月中旬	9月中旬	教務・学部 運営室
	学位授与		3月	9月	—
修了後	学位論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表		学位授与から3月以内		—
	博士学位論文の公表（附属図書館リポジトリ登録）		学位授与から1年以内		教務・学部 運営室

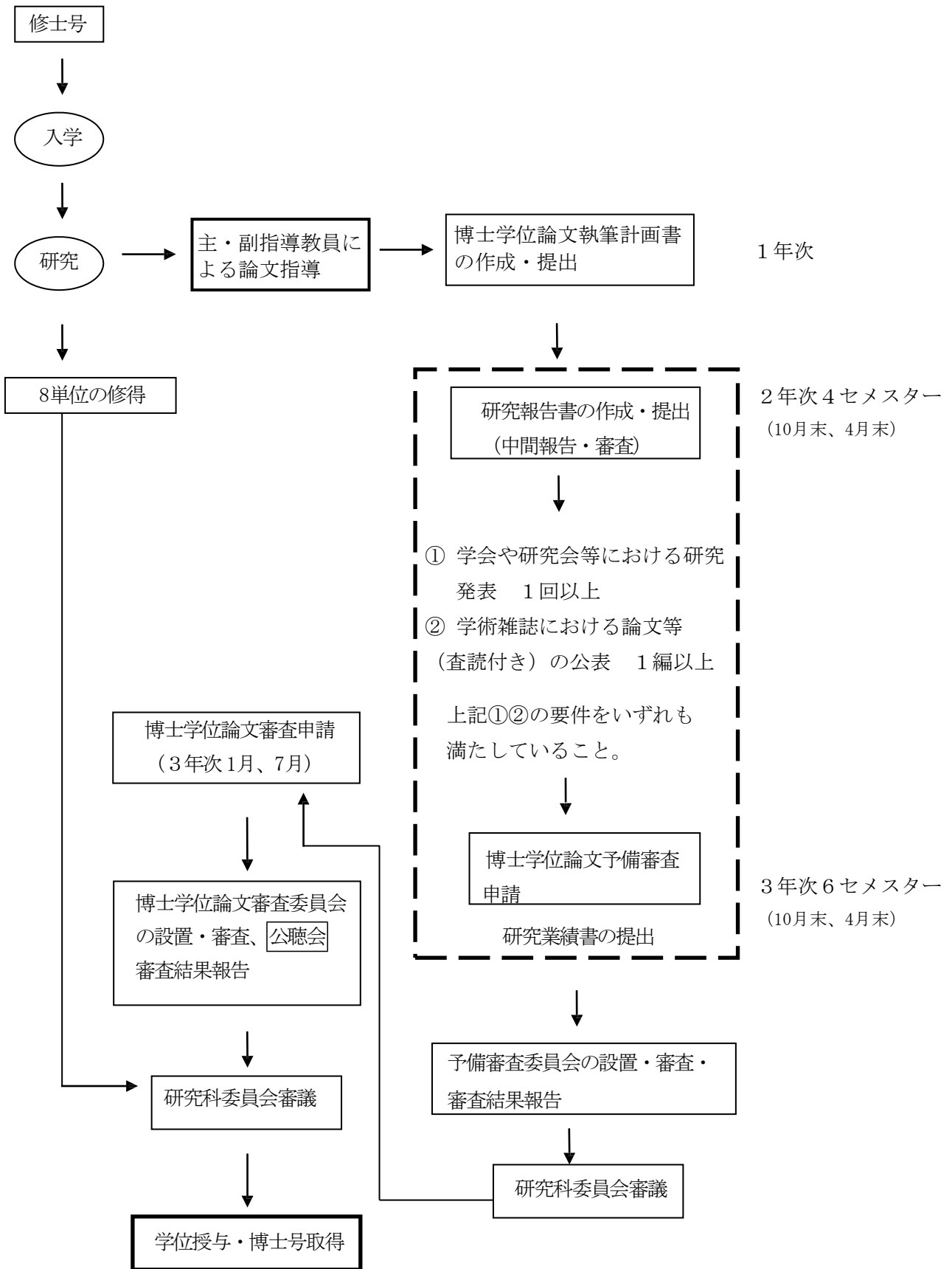
※1 長期履修制度の場合の提出時期はこれとは異なり、最終年次に進むまでの間で「博士学位論文執筆計画書」で決めた時期とする。詳細は「5 研究報告書の提出及び博士候補者の認定について」(1)を参照すること。

※2 所定の期限までに提出できない場合は、「理由書」を提出すること。「理由書」の提出は原則3回まで。詳細は「5 研究報告書の提出及び博士候補者の認定について」(2)を参照すること。

※3 申請のための要件を満たしていれば、「4月入学」及び「10月入学」のいずれに示された日程であっても、博士学位論文予備審査又は博士学位論文審査の申請をすることができる。

※4 審査日程の都合等で期日に間に合わない場合は、事務局教務・学部運営室に事前相談すること。

12 広島市立大学大学院国際学研究所博士後期課程修了のプロセス



13 授業科目一覧表

授業科目	担当者	期	単位数
国際社会研究分野			
国際社会研究演習Ⅰ(国際法)	太田 育子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際法)	太田 育子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際法)	太田 育子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際法)	太田 育子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際協力論)	吉田 晴彦	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際協力論)	吉田 晴彦	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際協力論)	吉田 晴彦	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際協力論)	吉田 晴彦	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(マクロ社会理論)	湯浅 正恵	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(マクロ社会理論)	湯浅 正恵	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(マクロ社会理論)	湯浅 正恵	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(マクロ社会理論)	湯浅 正恵	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(紛争解決論)	古澤 嘉朗	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(紛争解決論)	古澤 嘉朗	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(紛争解決論)	古澤 嘉朗	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(紛争解決論)	古澤 嘉朗	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(比較政治学)	金 栄鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(比較政治学)	金 栄鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(比較政治学)	金 栄鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(比較政治学)	金 栄鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(経済政策論)	高橋 広雅	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(経済政策論)	高橋 広雅	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(経済政策論)	高橋 広雅	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(経済政策論)	高橋 広雅	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(非営利組織論)	金谷 信子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(非営利組織論)	金谷 信子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(非営利組織論)	金谷 信子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(非営利組織論)	金谷 信子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(環境経済学)	山根 史博	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(環境経済学)	山根 史博	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(環境経済学)	山根 史博	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(環境経済学)	山根 史博	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際開発論)	目黒 紀夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際開発論)	目黒 紀夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際開発論)	目黒 紀夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際開発論)	目黒 紀夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際経営論)	李 在鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際経営論)	李 在鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際経営論)	李 在鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際経営論)	李 在鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(マーケティング論)	李 玲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(マーケティング論)	李 玲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(マーケティング論)	李 玲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(マーケティング論)	李 玲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際金融論)	高久 賢也	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際金融論)	高久 賢也	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際金融論)	高久 賢也	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際金融論)	高久 賢也	1・2・3	2単位

授業科目	担当者	期	単位数
国際社会研究演習Ⅰ(会計学)	井手吉 成佳	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(会計学)	井手吉 成佳	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(会計学)	井手吉 成佳	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(会計学)	井手吉 成佳	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際商務論)	寺井 里沙	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際商務論)	寺井 里沙	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際商務論)	寺井 里沙	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際商務論)	寺井 里沙	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(マスメディア論)	井上 泰浩	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(マスメディア論)	井上 泰浩	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(マスメディア論)	井上 泰浩	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(マスメディア論)	井上 泰浩	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(比較国際教育学)	卜部 匡司	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(比較国際教育学)	卜部 匡司	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(比較国際教育学)	卜部 匡司	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(比較国際教育学)	卜部 匡司	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(健康心理学)	山口 光明	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(健康心理学)	山口 光明	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(健康心理学)	山口 光明	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(健康心理学)	山口 光明	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(翻訳論)	横山 知幸	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(翻訳論)	横山 知幸	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(翻訳論)	横山 知幸	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(翻訳論)	横山 知幸	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(Learning, Education and Culture)	開講せず	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(Learning, Education and Culture)	開講せず	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(Learning, Education and Culture)	開講せず	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(Learning, Education and Culture)	開講せず	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(現代思想)	上尾 真道	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(現代思想)	上尾 真道	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(現代思想)	上尾 真道	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(現代思想)	上尾 真道	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(人的資源管理論)	山崎 雅夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(人的資源管理論)	山崎 雅夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(人的資源管理論)	山崎 雅夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(人的資源管理論)	山崎 雅夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(応用言語論)	森田 光宏	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(応用言語論)	森田 光宏	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(応用言語論)	森田 光宏	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(応用言語論)	森田 光宏	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(日本語教育学)	重田 美咲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(日本語教育学)	重田 美咲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(日本語教育学)	重田 美咲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(日本語教育学)	重田 美咲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(対照言語学)	藤原 優美	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(対照言語学)	藤原 優美	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(対照言語学)	藤原 優美	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(対照言語学)	藤原 優美	1・2・3	2単位

授業科目	担当者	期	単位数
地域研究分野			
地域研究演習Ⅰ(東南アジア研究)	板谷 大世	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(東南アジア研究)	板谷 大世	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(東南アジア研究)	板谷 大世	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(東南アジア研究)	板谷 大世	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(中国研究)	飯島 典子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(中国研究)	飯島 典子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(中国研究)	飯島 典子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(中国研究)	飯島 典子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(アフリカ社会)	田川 玄	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(アフリカ社会)	田川 玄	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(アフリカ社会)	田川 玄	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(アフリカ社会)	田川 玄	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(東ヨーロッパ研究)	大庭 千恵子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(東ヨーロッパ研究)	大庭 千恵子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(東ヨーロッパ研究)	大庭 千恵子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(東ヨーロッパ研究)	大庭 千恵子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(American Literature and Culture)	Michael Gorman	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(American Literature and Culture)	Michael Gorman	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(American Literature and Culture)	Michael Gorman	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(American Literature and Culture)	Michael Gorman	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(日本社会)	Ulrike Wöhr	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(日本社会)	Ulrike Wöhr	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(日本社会)	Ulrike Wöhr	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(日本社会)	Ulrike Wöhr	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(日本政治外交論)	武田 悠	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(日本政治外交論)	武田 悠	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(日本政治外交論)	武田 悠	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(日本政治外交論)	武田 悠	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(日本文化史)	山口 えり	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(日本文化史)	山口 えり	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(日本文化史)	山口 えり	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(日本文化史)	山口 えり	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(フランスの文学と文化)	大場 静枝	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(フランスの文学と文化)	大場 静枝	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(フランスの文学と文化)	大場 静枝	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(フランスの文学と文化)	大場 静枝	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(中東アラブ研究)	田浪 亜央江	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(中東アラブ研究)	田浪 亜央江	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(中東アラブ研究)	田浪 亜央江	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(中東アラブ研究)	田浪 亜央江	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(ラテンアメリカの文化と歴史)	吉江 貴文	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(ラテンアメリカの文化と歴史)	吉江 貴文	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(ラテンアメリカの文化と歴史)	吉江 貴文	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(ラテンアメリカの文化と歴史)	吉江 貴文	1・2・3	2単位

2025年度以前入学生对象

国際学研究科の人材育成の目標及び各ポリシー

○ 人材育成の目標

国際学研究科は、深い学識と広い視野に基づいて、専門的な立場から国際社会や地域社会に貢献できる能力や技能の育成を教育理念とし、次のような人材の育成を目標としています。

1. 国際関係、公共政策、経営政策、社会文化、言語文化の様々な機能と役割の分析・研究を通じて、国際社会とそれを構成する様々なコミュニティが直面している問題の分析と解決に資するための教育・研究を行い、現代社会の問題点や課題を自ら発見し、解決に貢献したり指導力を発揮したりできる実践的な能力を備えた人材
2. 独自性および独創性をもって研究や諸活動に携わることができる教育者・研究者・実務者

○ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

国際学研究科では、次のような人の入学を求めています。

1. 国際社会やそれを構成する様々なコミュニティが抱える諸課題について、専門的なアプローチを用いて課題の発見や解決に取り組もうとしている人
2. 専門性を深めるために探究し、思考や議論を深めるための論理性や説得力を備えている人
3. 本研究科の研究分野に関する基礎知識および研究に必要な語学力を有し、さらに専門的な知識や研究能力を高め研究や職業に役立てようとする人
4. 本研究科での学びを通じて、自己研鑽に努めたい人

○ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国際学研究科は、深い学識と広い視野に基づいて、専門的な立場から国際社会や地域社会に貢献できる能力や技能の育成を基本理念としています。国際関係、公共政策、経営政策、社会文化、言語文化等に関わる課題の分析・研究を通じて、国際社会とそれを構成する様々なコミュニティが直面している問題点や課題を自ら発見し解決できる実践的な人材の養成と、独自性の高い研究や諸活動に携わることのできる教育者・研究者・実務者の養成を目的として、教育課程を次のように編成し、実践します。

博士前期課程

1. 全研究科共通科目

全研究科共通科目（広島市立大学大学院国際学研究科、情報科学研究科、芸術学研究科および平和学研究科の共通科目をいう。）は、多様な文化・価値観を尊び、人間、社会、自然、平和に関する幅広い関心と知識を習得し、専攻する専門分野の既成の枠組みを超えて、多角的な分析視点、多様な問題意識、および柔軟な判断力を養うことを目的として、人文、社会、自然、芸術などの学際的な授業科目で編成します。

2. 研究科開設科目

政治、経済、文化の基本的枠組みを念頭におき、国際学研究科特有の特色をもった専門研究に取り組めるように、専門基礎科目群と専門研究科目群（国際関係研究群、公共政策研究群、経営政策研究群、社会文化研究群、言語文化研究群）を設置するとともに、これらの領域を横断する地域研究や平和研究にかかわる多彩な教育・研究内容の授業科目を開設します。

（1）専門基礎科目

研究者および高度文系実務者を養成するために、専門基礎科目、国際研究特講、特別講義・演習を開設します。

専門基礎科目として、人文・社会科学研究の基本的なアプローチ方法とアカデミック・スキルズ、および統計処理・分析に必要な基礎知識を習得する科目を開設します。また、とくに広島と世界の関連に着目した修士（平和学）の学位取得を目指す院生を対象とした平和学コア科目群や、国際研究特講としてのピース・インターンシップ等を配置します。

（2）専門研究科目群

2-1 国際関係研究群

グローバル化時代の国際社会やそれを構成する様々なコミュニティの変化に対応できる能力を養成することを目的に、国家、国際組織、市民や非政府組織など多様な主体の相互関係を、歴史的・理論的に深く学ぶための専門科目を開設します。また、世界各地の国際関係史や政治外交史に関する高度な専門研究を通じて、課題解決能力を高めることを目指します。

2-2 公共政策研究群

多様化する現代社会の課題について、公共関連組織や民間企業などの役割や機能を考察しながら分析し対処できる能力を高めることを目的に、経済・社会の諸側面から理論的・実践的に学ぶ専門科目を開設します。経済政策、国際開発、環境経済、都市経済、非営利組織、情報メディア、持続可能な開発のための教育などの分野で、公共政策に関する高度な専門研究を通じた実践的能力を高めることを目指します。

2-3 経営政策研究群

グローバル化が進む事業環境で活動する組織や企業に求められる組織経営手法とビジネス・センスを磨くことを目的に、経営にかかわる諸課題を、理論的・実践的に学ぶための専門科目を開設します。国際経営、マーケティング、人的資源管理、会計、国際商務、多国籍企業、国際金融などの専門研究を通じて、実際の経営に活かせる、長期的・多角的視野での柔軟かつ創造的な実践的能力を高めることを目指します。

2-4 社会文化研究群

複雑化が進行する世界と、多様化が進む地域の双方の課題に、人間とその社会に対する深い理解をもって対処できる能力を身に着けることを目的に、社会と文化の諸側面を歴史的・理論的に深く学ぶための専門科目を開設します。世界各地域の社会や文化に関して、歴史学、社会学、文化人類学、哲学などの専門研究を通じて、多様化が進む社会のなかで、関連する分野で活躍できる実践的能力を高めることを目指します。

2-5 言語文化研究群

言語と文化に関わるさまざまな課題を専門的な理論や方法に基づき、研究することを目的とし、言語や文化が人々の社会的営みに果たす役割を深く学ぶための専門科目を開設します。日本語および外国語教育、比較言語、言語政策、文学、異文化理解、通訳・翻訳などの専門研究を通じて、言語や文化に関わる分野に造詣を深めるとともに、関連する分野で活躍できる実践的能力を高めることを目指します。

博士後期課程

国際社会とそれを構成する様々なコミュニティの多彩な側面を正確に把握し、多種多様な領域を解明するために、政治、経済、文化の基本的枠組みを念頭におき、国際社会研究分野と地域研究分野の二つの研究分野から教育課程を編成します。

○ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程

国際学研究科は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下のいずれかの学識・能力を身につけたうえで、修士論文あるいは課題研究報告書を提出して審査に合格した学生に対して修了を認定し、修士（国際学、学術または平和学）の学位を授与します。

- ・それぞれの専門分野（国際関係研究、公共政策研究、経営政策研究、社会文化研究、言語文化研究）における十分な学識と、グローバル化時代における諸課題を多面的かつ的確に分析し考察できる能力、および高い研究能力。
- ・国際学研究科における学修を通じて研鑽し身に着けた学識と、文系実務者としての能力

博士後期課程

国際学研究科は、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の学識・能力を身につけたうえで、博士学位論文を提出して審査に合格した学生に対して修了を認定し、博士（国際学、学術または平和学）の学位を授与します。

- ・グローバル化時代において国際社会とそれを構成する多様なコミュニティが抱える諸課題を各専門分野の理論や方法を用いて分析する国際社会研究分野、あるいは日本をはじめ世界各地域を対象として政治・経済・文化・言語などについて多面的に研究を深める地域

研究分野における高度な学識

- ・研究者として自立できる研究能力と独自性の高い研究成果を達成できる能力
- ・課程修了見込者および課程修了者と同等以上の学力および研究能力（博士学位請求論文を提出して審査に合格した者）

I 国際学研究科博士前期課程の特色

○ 教育研究の特色

(1) 学際的教育・研究に適した授業科目の編成

今日の国際社会の多様化したニーズに応え、グローバルな課題に対応するために、より柔軟で学際的教育・研究に適した授業科目の編成を目指しています。授与する修士学位の種類は、「修士（国際学）」、「修士（学術）」また「修士（平和学）」のいずれかです。

本研究科の教育課程は、全研究科共通科目、研究科開設科目から構成されます。研究科開設科目では、専門基礎科目と「国際関係」、「公共政策」、「経営政策」、「社会文化」、「言語文化」の5つの研究群を設置するとともに、これらの領域を横断しながら、研究対象地域を多角的に研究、分析する「地域研究」および人類の平和的共存をさまざまな角度から追及する「平和研究」にかかわる多彩な内容の授業科目を開設しています。

(2) 国際化への対応

授業科目の履修期間は、留学生また外国からの帰国者などの受け入れに対する便宜等を考慮して、半年単位の Semester 制を導入しています。

また、「修士（平和学）」の学位取得を目指す場合は、英語による授業科目のみで学位を取得することができます。

(3) 社会人・実務者など多様な学生の受け入れ体制

社会人・実務者などの学びを支援し、社会人が在職のまま本研究科を修了することを可能にする一助として、上記の Semester 制度と合わせて、教員との相談に応じて、夜間その他特定の時間または時期において授業又は研究指導等を受けることができます。場合によっては、オンラインで授業を受講することも可能です。また、長期履修制度（3年または4年）も導入しています。

Ⅱ 入学から修了まで

1 主指導教員と副指導教員の決定

入学志願票を提出する時に記載した「志望指導教員」が、原則として入学後は主指導教員となります。学生は、主指導教員から授業科目の履修についての指導と学位取得のための研究指導を受けます。社会人で、夜間の授業やオンラインによる授業の受講を希望する場合は、予め主指導教員と履修の方法、受講時間等について相談してください。

副指導教員については、主指導教員と相談の上、副指導教員として希望する専任教員2名以内に関連する研究科目の中から選び、その教員の了承を得て「副指導教員希望届」を提出してください。学生は、副指導教員から授業科目の履修や研究についての助言を受けます。「副指導教員希望届」の提出期限は、春季入学者は7月末日、秋季入学者は翌年1月末日です。

2 履修登録等について

履修登録、履修確認及び履修取消については、【全研究科共通資料】「4 履修登録」を参照の上、「いちぼる (UNIPA)」で行ってください。

履修科目の決定にあたっては、主指導教員が履修を指定する科目がありますので、必ず主指導教員と相談の上、科目を選択し登録してください。原則として、4月に前・後期両方の履修登録を行います。

また、履修を取り消す場合は、主指導教員の承認が必要です。

3 他研究科開設科目の履修について

研究において教育上有益と認められる場合は、平和学研究科開設科目と芸術学研究科開設科目を履修することができます（平和学研究科は「平和学特殊演習」を除く。芸術学研究科は「必修科目」「選択必修科目（造形総合研究）及び（造形特別研究）を除く）。履修を希望する場合は、履修登録期間中に、主指導教員及び授業科目の担当教員の承認を得た上で、「他研究科開設科目履修届」を教務・研究支援室に提出してください。履修をした科目は、15単位を超えない範囲で主指導教員指定科目に含めることができます。

4 修了必要単位数について

修了に必要な単位数は 30 単位以上で、その内訳は以下のとおりです。

< 修士（国際学）あるいは修士（学術）の学位取得のために満たさなければならない要件 >

全研究科共通科目	2 単位以上
研究科開設科目	24 単位以上
主指導教員指定科目	14 単位以上
自由選択科目	8 単位
専門基礎科目	2 単位
計	30 単位以上

- ※ 主指導教員指定科目に「専門基礎科目」、「平和学コア科目」及び「ピース・インターンシップ、またはピース・インターンシップ I または II」を含むことはできない。
- ※ 社会人学生または留学生で、全研究科共通科目及び専門基礎科目を履修することが困難である場合は、「単位振替届」を教務・研究支援室に提出し、主指導教員指定科目に振り替えることができる。
- ※ 2023 年度より芸術学研究科開設科目（基礎理論科目と選択科目）が履修できる。ただし平和学研究科開設科目と併せて 15 単位を超えない範囲でのみ主指導教員指定科目に含めるものとする。

< 修士（平和学）の学位取得のために満たさなければならない要件 >

全研究科共通科目	2 単位以上
研究科開設科目	24 単位以上
主指導教員指定科目	14 単位以上
専門基礎科目	2 単位
平和学コア科目	4 単位
ピース・インターンシップ I または II	2 単位（必修）
平和学専門科目	8 単位
計	30 単位以上

- ※ 主指導教員指定科目には、「平和学専門科目」を含むことができる。
- ※ 主指導教員指定科目に、「専門基礎科目」、「平和学コア科目」及び「ピース・インターンシップ、またはピース・インターンシップ I または II」を含むことはできない。
- ※ 社会人学生または留学生で、全研究科共通科目及び専門基礎科目を履修することが困難である場合は、「単位振替届」を教務・研究支援室に提出し、主指導教員指定科目に振り替えることができる。
- ※ 2023 年度より芸術学研究科開設科目（基礎理論科目と選択科目）が履修できる。ただし平和学研究科開設科目と併せて 15 単位を超えない範囲でのみ主指導教員指定科目に含めるものとする。

5 修了要件と修業年限及び長期履修制度について

博士前期課程を修了するためには、大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文あるいは課題研究報告書を在学期間中に提出して審査および口述試験に合格すれば、博士前期課程の修了となります。ただし、特に短期間で優秀な研究成果が期待できると主指導教員が判断した場合には、1年以上の在学をもって、修了を認めることがあります。

また、在学中に、研究科長の許可を受けて外国の大学の大学院へ留学することができます。その場合の留学期間は修業年限に含めることができます。ただし、休学して留学する場合の休学期間は修業年限に含めることはできません。

【長期履修学生制度について】

社会人入試制度により入学した学生は、標準修業年限2年を、3年または4年として計画的に教育課程を修了することができる長期履修制度を利用することができます。この制度を利用すると、標準修業年限の授業料の総額を、長期履修期間に応じて支払うこととなります。希望する学生は、「12 提出書類、手続き等一覧」記載の提出期限内に所定の手続きを行ってください。ただし、長期履修学生であっても、在学年限は4年であり、最長4年の長期履修期間内に修了できないことが、退学または除籍につながるため、十分に注意してください。

6 研究計画書の作成と提出について

学生は、主指導教員と相談の上、研究計画書を作成して事務局教務・研究支援室に提出してください。研究計画書の提出にあたっては、主指導教員および副指導教員の承認を得てください。

研究計画書の提出期限は、春季入学者の場合は2年次前期の履修登録最終日まで、秋季入学者の場合は2年次後期の履修登録最終日までに行ってください。

7 「修士論文」と「課題研究報告書」について

本研究科では、入学時に「修士論文」あるいは「課題研究報告書」のいずれかを選択します。いずれも、博士前期課程2年間で学んだ基本的な知識や研究の成果、また論文作成技術の習得度などをみるためのものと位置づけられています。

この制度の特徴と提出手続きの詳細は以下のとおりです。

	修士論文	課題研究報告書
内容	学術的貢献度が高いもの 学術論文の形式（構成・参考文献等） 【要件】 ・ 先行研究のサーベイ ・ 学術研究面での独自性 ・ 論理的な議論の展開	資料価値が高いもの 学術論文の形式（構成・参考文献等） 【要件】 ・ 綿密な調査分析や記録 ・ 特定の団体・事業などに関する事例研究や、特定の課題に関する検討 ・ 論理的な議論の展開
字数(目安)	【和文】 40,000 字以上 【英文】 20,000 語以上	【和文】 30,000 字以上 【英文】 15,000 語以上
書式	(1) 原則としてA4判・横書きとする。 (2) 和文：1 ページあたり1行43字×30行 (3) 英文：1 ページあたり80字×30行 (4) ページ番号を下中央に入れる。 (5) 上下左右2.5cm程度の余白をとる。	
提出書類	(1) 修士論文提出票 1部 (2) 修士論文審査願 1部 ※ 主指導教員の承認印のあるもの (3) 修士論文 3部 (4) 修士論文要旨 4部 ※ 要旨は原則として日本語で作成	(1) 課題研究報告書提出票 1部 (2) 課題研究報告書審査願 1部 ※ 主指導教員の承認印のあるもの (3) 課題研究報告書 3部 (4) 課題研究報告書要旨 4部 ※ 要旨は原則として日本語で作成
	論文等3部は、ファイル等に綴じ、ファイルの表紙には論文題目、学籍番号、提出者氏名、主指導教員名、副指導教員名、提出年月日を記入すること。	
提出期限	【春季入学者】 冬季休業日前最後の授業日午後6時 【秋季入学者】 6月最終の平日午後6時	
提出先	事務局教務・学部運営室	

- ・ このほか、製本用修士論文等の提出が必要です。詳細は掲示の指示に従ってください。
- ・ **博士後期課程への進学を希望する場合や、研究者を志望する場合は、「修士論文」を作成していることを推奨します。**大学院入学後に選択の変更を希望する場合は、主指導教員、副指導教員の同意を得たうえで、修士論文等提出期限までに変更願を提出し、研究科委員会の承認を得てください。
- ・ 一度提出した修士論文等の取り下げは、口述試験が実施される前のみ可能です。その場合は、主指導教員の承認を得た上で、研究科長に修士論文等取り下げ願を提出し、研究科委員会の承認を得てください。

8 修士論文等審査基準について

主指導教員および副指導教員（2名）で編成する「修士論文等審査委員会」が、修士論文等の審査と口述試験を行ないます。副指導教員が1名の場合には、関連する研究科目から他の1名の教員が主指導教員の推薦によって審査委員会に加わります。

審査は、次にかかげる項目を総合的に考慮して行います。

【修士論文審査基準】

(1) 研究テーマ及び問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に妥当性があり、学術的あるいはまた社会的意義が認められること。

(2) 研究方法の適切性

先行研究や関連資史料・データ等をふまえ、研究テーマ及び問題設定にふさわしい研究方法によって考察・分析がなされていること。

(3) 論旨の妥当性

論旨の進め方に一貫性があり、整合的な結論が導出されていること。

(4) 独創性

研究テーマ、問題設定、研究方法、分析、結論等に一定の独創性が認められること。

(5) 論文作成能力

文章表現が適切で、学術論文としての構成・体裁が整っていること。

(6) 研究倫理の遵守

研究の立案・遂行、研究データの保管、研究成果の発表に関して、適切な倫理的配慮がなされていること、また学内及び関連学会等の倫理基準等を遵守の上、研究がなされていること。

【課題研究報告書審査基準】

(1) 研究テーマ及び問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に妥当性があり、学術的あるいはまた社会的意義が認められること。

(2) 研究方法の適切性

研究テーマ及び問題設定にふさわしい研究方法によって、関連資史料・データ等が整理・分析されていること。

(3) 論旨の妥当性

論旨の進め方に一貫性があり、整合的な結論が導出されていること。

(4) 高い資料的価値

調査分析・記録、事例研究や特定課題の設定等に高い資料的価値が認められること。

(5) 論文作成能力

文章表現が適切で、学術論文としての構成・体裁が整っていること。

(6) 研究倫理の遵守

研究の立案・遂行、研究データの保管、研究成果の発表に関して、適切な倫理的配慮がなされていること、また学内及び関連学会等の倫理基準等を遵守の上、研究がなされていること。

9 学位について

修了必要単位数を満たした上で、修士論文等が審査に合格すると、研究科委員会の判定を経て学位が授与されます。学位は、修士論文等の内容によって、次のいずれかになります。

修士（国際学）

修士（学術）

修士（平和学）

10 教育職員免許状について

中学校教諭一種免許状（英語又は社会）と高等学校教諭一種免許状（英語、地理歴史又は公民）を取得している者は、学則別表第3(1)～(4)の科目24単位を修得することにより、英語、社会、地理歴史又は公民の専修免許状を取得することができます。

（巻末の学則別表を参照）

国際学研究科で取得できる教育職員免許状は次のとおりです。

中学校教諭 専修免許状 英語

中学校教諭 専修免許状 社会

高等学校教諭 専修免許状 英語

高等学校教諭 専修免許状 地理歴史

高等学校教諭 専修免許状 公民

11 単位認定について

他の大学院での講義の受講も、本学で修得したものとして単位の認定をする制度があります。学術交流協定を締結している大学、とくにハワイ大学で提供されている次表中の科目が単位認定の対象になります。

ハワイ大学マノア校 Peace Studies (PACE)提供科目（本学で単位認定が可能な科目）

コース番号	科目名
PACE 412	Gandhi, King and Nonviolence
PACE 413	Terrorism
PACE 477	Culture and Conflict Resolution
PACE 478	International Law and Disputes
PACE 647	Mediation: Theory and Practice
PACE 668	Facilitation: Facilitating Community and Organizational Change

※ PACE は Peace and Conflict Education の略、その後がコース番号です。

※ すべて3単位科目です。

※ 次のウェブサイトにて授業の概要がまとめられています。

<https://manoa.hawaii.edu/catalog/courses-overview/>

他大学院で修得した単位は最大8単位まで修了要件として認められますが、事前に主指導教員の上が必要となります。

12 提出書類、手続き等一覧

○長期履修制度に係るもの（対象：社会人に特定した入試制度により入学した者）

文書名	提出期間・期限等	提出先
長期履修学生申請書 (入学時から希望する場合)	春季入学者：4月末日 秋季入学者：10月末日	教務・学部 運営室
長期履修学生申請書 (中途から希望する場合)	前期から希望する場合：前年度の2月末日 後期から希望する場合：当該年度の8月末日	
長期履修期間変更申請書 (変更は1回限り。最終年次に在学する学生は変更できない。)	前期から希望する場合：前年度の2月末日 後期から希望する場合：当該年度の8月末日	

○研究指導及び修士論文等審査に係るもの、修士論文等審査日程

学年	内 容	期間・期限・時期等		提出先
		春季入学者	秋季入学者	
1年	専門基礎科目の履修	前期又は後期	後期又は前期	—
	副指導教員希望届の提出	7月末日	1月末日	
2年	研究計画書の提出	前期履修登録 最終日	後期履修登録 最終日	教務・学部 運営室
	修士論文等及び要旨の提出	冬季休業日前最後 の授業日午後6時	6月最終の 平日午後6時	
	修士論文等審査委員会の設置	12月	6月	—
	修士論文等審査委員会による審査	1月	7月	—
	修士論文等審査報告・研究科委員会による修士学位授与の承認	2月	7月	—
	製本用修士論文等の提出	2月末日	8月末日	教務・学部 運営室
学位授与		3月	9月	—

※ 修士論文等の提出にあたっては、「7 『修士論文』と『課題研究報告書』について」及び掲示をよく確認すること。

※ 修了要件等を満たしていれば（または満たす見込みであれば）、「4月入学」及び「10月入学」のいずれに示された日程であっても、修士論文等を提出し、審査を受けることができる。

○必要に応じ随時提出するもの

手 続 き	提出期間・期限等	提出方法・提出先
指導教員変更願	必要となった場合速やかに	教務・学部運営室
修士論文・課題研究報告書 変更願	随時（ただし修士論文等提出時まで）	
単位振替届(*)	随時（提出の条件については(*)のとおり）	

(*) 単位振替届は、①社会人選抜入試により入学した者 または ②日本語を母語とせず、英語で修士論文または研究課題報告書を作成する者で、全研究科共通科目及び専門基礎科目を履修することが困難である場合に届け出ることができる。ただし、原則として最終年次に在学するものは届け出ることができない。

13 授業科目一覧表

授業科目	◎日英可 ○英のみ	平和学 専門科目	地域 研究	担当者	期	単位数
全研究科共通科目群「21世紀の人間と社会」						
人間論A (人文・社会科学)				上尾 真道	前期	2単位
人間論B (自然科学)				曾雌 崇弘	前期 集中	2単位
国際関係と平和				石田 敦	後期	2単位
ヒロシマと核の時代	◎			佐藤 史郎	前期	2単位
日本論				山口 えり	前期	2単位
科学技術と倫理				八重樫 徹	前期 集中	2単位
情報と社会				河又 貴洋、桑原 俊	前期 集中	2単位
道具論				(開講せず)	後期	2単位
都市論				(開講せず)	後期	2単位
専門基礎科目						
学術研究の進め方				[代]高久 賢也、太田 育子 佐藤 敦郎、寺井 里沙	前期	2単位
学術研究のための基礎統計				山根 史博	後期	2単位
平和学コア科目						
平和学概論	◎			吉田 晴彦 他	前期	2単位
広島と世界				井上 泰浩 他	後期	2単位
HIROSHIMA and PEACE for Graduate Students	○			古澤 嘉朗	前期	2単位
国際関係研究群						
国際政治理論	◎	○		秦野 貴光	前期	2単位
国際安全保障理論	◎	○		秦野 貴光	後期	2単位
紛争解決論	◎	○		古澤 嘉朗	前期	2単位
平和構築論	◎	○		古澤 嘉朗	後期	2単位
国際協力論 I		○		吉田 晴彦	前期	2単位
国際協力論 II		○		吉田 晴彦	後期	2単位
日本政治外交論 I		○	○	武田 悠	前期	2単位
日本政治外交論 II		○	○	武田 悠	後期	2単位
中国国際関係史 I	◎	○	○	飯島 典子	前期	2単位
中国国際関係史 II	◎	○	○	飯島 典子	後期	2単位
東北アジア政治論 I		○	○	金 栄鎬	前期	2単位
東北アジア政治論 II		○	○	金 栄鎬	後期	2単位
東南アジア政治論 I		○	○	板谷 大世	前期	2単位
東南アジア政治論 II		○	○	板谷 大世	後期	2単位
ヨーロッパ国際関係史 I		○	○	大庭 千恵子	前期	2単位
ヨーロッパ国際関係史 II		○	○	大庭 千恵子	後期	2単位
アメリカ政治外交論 I		○	○	長 史隆	前期	2単位
アメリカ政治外交論 II		○	○	長 史隆	後期	2単位
ロシア国際関係史 I	◎	○	○	斎藤 祥平	前期	2単位
ロシア国際関係史 II	◎	○	○	斎藤 祥平	後期	2単位

授業科目		◎日英可 ○英のみ	平和学 専門科目	地域 研究	担当者	期	単位数
研 究 科 開 設 科 目	公共政策研究群						
	国際法Ⅰ		○		太田 育子	前期	2単位
	国際法Ⅱ		○		太田 育子	後期	2単位
	経済政策論Ⅰ				(開講せず)	前期	2単位
	経済政策論Ⅱ				(開講せず)	後期	2単位
	行政学Ⅰ				佐藤 敦郎	前期	2単位
	行政学Ⅱ				佐藤 敦郎	後期	2単位
	国際開発学	◎			目黒 紀夫	前期	2単位
	開発社会学／人類学	◎			目黒 紀夫	後期	2単位
	非営利組織論				金谷 信子	前期	2単位
	社会政策論				金谷 信子	後期	2単位
	環境経済学Ⅰ				山根 史博	前期	2単位
	環境経済学Ⅱ				山根 史博	後期	2単位
	教育経営学Ⅰ				(開講せず)	前期	2単位
	教育経営学Ⅱ				(開講せず)	後期	2単位
	比較国際教育学				卜部 匡司	前期	2単位
	持続可能な開発のための教育（E S D）論				卜部 匡司	後期	2単位
	情報メディア論Ⅰ	◎			井上 泰浩	前期	2単位
	情報メディア論Ⅱ	◎			井上 泰浩	後期	2単位
	健康心理学Ⅰ				山口 光明	前期	2単位
	健康心理学Ⅱ				山口 光明	後期	2単位
	経営政策研究群						
	国際経営論Ⅰ				李 在鎬	前期	2単位
	国際経営論Ⅱ				李 在鎬	後期	2単位
	マーケティング論Ⅰ				李 玲	前期	2単位
	マーケティング論Ⅱ				李 玲	後期	2単位
	人的資源管理論Ⅰ				山崎 雅夫	前期	2単位
	人的資源管理論Ⅱ				山崎 雅夫	後期	2単位
	多国籍企業論Ⅰ	◎	○		Nurhaizal Azam Arif	前期	2単位
	多国籍企業論Ⅱ	◎			Nurhaizal Azam Arif	後期	2単位
	国際金融論Ⅰ				高久 賢也	前期	2単位
	国際金融論Ⅱ				高久 賢也	後期	2単位
	会計学Ⅰ				井手吉 成佳	前期	2単位
	会計学Ⅱ				井手吉 成佳	後期	2単位
公会計論Ⅰ				城多 努	前期	2単位	
公会計論Ⅱ				城多 努	後期	2単位	
日本産業論Ⅰ			○	(開講せず)	前期	2単位	
日本産業論Ⅱ			○	(開講せず)	後期	2単位	
経営政策特講Ⅰ				(開講せず)	前期	2単位	
経営政策特講Ⅱ				(開講せず)	後期	2単位	
国際商務論Ⅰ	◎			寺井 里沙	前期	2単位	
国際商務論Ⅱ	◎			寺井 里沙	後期	2単位	

授業科目		◎日英可 ○英のみ	平和学 専門科目	地域 研究	担当者	期	単位数
研 究 科 開 設 科 目	社会文化研究群						
	現代思想Ⅰ		○		上尾 真道	前期	2単位
	現代思想Ⅱ		○		上尾 真道	後期	2単位
	現代社会論Ⅰ		○		湯浅 正恵	前期	2単位
	現代社会論Ⅱ		○		湯浅 正恵	後期	2単位
	ジェンダー論Ⅰ		○	○	Ulrike Wöhr	前期	2単位
	ジェンダー論Ⅱ		○	○	Ulrike Wöhr	後期	2単位
	歴史資料研究	◎		○	山口 えり	前期	2単位
	日本文化史研究	◎		○	山口 えり	後期	2単位
	ラテンアメリカ文化論Ⅰ			○	吉江 貴文	前期	2単位
	ラテンアメリカ文化論Ⅱ			○	吉江 貴文	後期	2単位
	中東イスラーム社会論Ⅰ			○	田浪 亜央江	前期	2単位
	中東イスラーム社会論Ⅱ			○	田浪 亜央江	後期	2単位
	アフリカ社会論			○	田川 玄	前期	2単位
	アフリカ文化論			○	田川 玄	後期	2単位
	言語文化研究群						
	英語教育論Ⅰ				奥西 有理	前期	2単位
	英語教育論Ⅱ				奥西 有理	後期	2単位
	日本語教育論Ⅰ				重田 美咲	前期	2単位
	日本語教育論Ⅱ				重田 美咲	後期	2単位
	応用言語論Ⅰ				森田 光宏	前期	2単位
	応用言語論Ⅱ				森田 光宏	後期	2単位
	翻訳論Ⅰ				横山 知幸	前期	2単位
	翻訳論Ⅱ				横山 知幸	後期	2単位
	イギリス文学・文化論Ⅰ			○	原 雅樹	前期	2単位
	イギリス文学・文化論Ⅱ			○	原 雅樹	後期	2単位
	フランス文学・文化論Ⅰ			○	大場 静枝	前期	2単位
	フランス文学・文化論Ⅱ			○	大場 静枝	後期	2単位
	American Literature and CultureⅠ	○		○	Michael Gorman	前期	2単位
	American Literature and CultureⅡ	○		○	Michael Gorman	後期	2単位
	Cross-cultural Psychology and CommunicationⅠ	○			(開講せず)	前期	2単位
	Cross-cultural Psychology and CommunicationⅡ	○			(開講せず)	後期	2単位
	対照言語学Ⅰ				藤原 優美	前期	2単位
対照言語学Ⅱ				藤原 優美	後期	2単位	
英語学習論Ⅰ				天野 修一	前期	2単位	
英語学習論Ⅱ				天野 修一	後期	2単位	

	授業科目	◎日英可 ○英のみ	平和学 専門科目	地域 研究	担当者	期	単位数
研 究 科 開 設 科 目	国際研究特講						
	国際研究特講 I				(博士前期課程担当全教員)	前期	2単位
	国際研究特講 II				(博士前期課程担当全教員)	後期	2単位
	ピース・インターンシップ I	◎			(博士前期課程担当全教員)	前期	2単位
	ピース・インターンシップ II	◎			(博士前期課程担当全教員)	後期	2単位
	特別講義						
	特別講義A				(博士前期課程担当全教員)	前期	2単位
	特別講義B				(博士前期課程担当全教員)	後期	2単位
	特別演習						
	特別演習 I				(博士前期課程担当全教員)	前期	2単位
特別演習 II				(博士前期課程担当全教員)	後期	2単位	

※英語表記(○のみ)になっている授業科目は、英語のみで授業を行います。
◎の授業科目は、日本語と英語の両方での授業が可能です。

※広島・長崎講座について

広島市と長崎市では、被爆者の「他の誰にもこんな思いをさせてはいけない」というメッセージの意味を学術的に整理・体系化し、普遍性のある学問として次代を担う若い世代に伝えていくため、国内外の大学に広島・長崎講座を開設・普及することに取り組んでいます。

広島・長崎講座は、被爆者のメッセージの意味を学問的に学習することにより、核兵器の悲惨さや非人道性を認識し、被爆者がなぜ報復ではなく和解の道を歩んだかについて正しく理解することを目的としています。

本研究科では、以下の3科目が「広島・長崎講座」として認定されています。

- ・ヒロシマと核の時代
- ・広島と世界
- ・HIROSHIMA and PEACE for Graduate Students

I 国際学研究科博士後期課程の特色

○ 教育研究の特色

(1) 国際性・学際性の観点からの教育研究

国際社会研究分野と地域研究分野の両分野の研究科目は、国境や国家という単位を越えてグローバルな視点から、人類益や地球益に立脚した地球規模のトランスナショナルな発想を基本とします。

また、学際性という観点から、文化、政治、経済や人文、社会、自然といった既存の学問分野や研究領域の枠にとらわれることなく、高度な専門性を維持しながら、より広範な学問的視野から教育研究が行えるよう配慮しています。

(2) 社会人・実務者など多様な学生の受け入れ

博士後期課程では、博士後期課程のために開講する科目を必要に応じて夜間に実施するなど、高度な専門の学術知識の習得を目指す社会人が在職のまま大学院に進学し得るよう配慮しています。

(3) 留学生の積極的な受け入れ

わが国の国際化の進展に伴い、今後教育面での国際交流のさらなる促進が期待されています。本研究科では諸外国からの留学生（交流協定を締結した大学から推薦された留学生を含む。）を積極的に受け入れ、教育・研究面での国際社会への貢献を目指します。

(4) 徹底的な個別的研究指導

博士後期課程では、研究分野の演習として、1年次に「国際社会研究演習I、II」及び「地域研究演習I、II」（各2単位）、2年次に「国際社会研究演習III、IV」及び「地域研究演習III、IV」（各2単位）を開設します。学生は主指導教員の指導を受けて、これらの演習のうちから4科目（8単位）を選択して履修します。主・副指導教員は、博士学位請求論文の作成に向け、研究分野の演習を通して徹底した個別的研究指導を行います。

II 入学から修了まで

1 主指導教員と副指導教員の決定

博士後期課程においては主指導教員が徹底した個別的な研究指導を行い、副指導教員はこれを補佐します。主指導教員は、入学志願票を提出するときに記載した「志望指導教員」がなります。副指導教員については、主指導教員と相談の上、副指導教員として希望する教員2名以上を選び、その教員の了承を得て「副指導教員希望届」を提出してください。

「副指導教員希望届」の提出期限は、春季入学は7月末日、秋季入学は翌年1月末日です。

学生は、主指導教員から学位取得のための研究指導を受けます。また、副指導教員からも研究についての助言を受けます。

なお、学生は、指導教員の変更を希望する場合には、主指導教員及び副指導教員の承認を得たうえで所定の「指導教員変更願」を研究科長に提出することができます。研究科長は「指導教員変更願」が提出された場合には、主指導教員の所見等を参考にし、指導教員の変更を認めることができます。

2 履修登録等について

履修登録、履修確認及び履修取消については、【全研究科共通資料】「4 履修登録」を参照の上、「いちぼる (UNIPA)」で行ってください。

履修科目の決定にあたっては、主指導教員が履修を指定する科目がありますので、必ず主指導教員と相談の上、科目を選択し登録してください。原則として、4月に前・後期両方の履修登録を行います。

また、履修を取り消す場合は、主指導教員の承認が必要です。

3 修了必要単位数について

博士後期課程における修了必要単位数は8単位です。

主指導教員の指導により、「国際社会研究演習」又は「地域研究演習」のうちから4科目(8単位)を選択して履修します。

4 修了要件と修業年限及び長期履修制度について

博士後期課程を修了するためには、原則として本課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ博士學位論文の審査と最終試験に合格しなければなりません。

【長期履修学生制度について】

標準修業年限3年を、4年、5年または6年として計画的に教育課程を修了することができる長期履修制度を利用することができます。この制度を利用すると、標準修業年限の授業料の総額を、長期履修期間に応じて支払うことになります。希望する学生は、「11 提出書類、手続き等一覧」記載の提出期限内に所定の手続きを行ってください。ただし、長期履修学生であっても、在学年限は6年であり、最長6年の長期履修期間内に修了できないことが、退学または除籍につながるため、十分に注意してください。

5 研究報告書の提出及び博士候補者の認定について

- (1) 学生は主指導教員の指導に基づき、1年次の終わりまでに所定の様式の「博士学位論文執筆計画書」を事務局教務・学部運営室に提出します。長期履修学生は、履修期間に応じて「研究報告書」の提出時期を明記してください。ただし、「研究報告書」は最終年次に進むまでに提出する必要があります。
- (2) 学生は主指導教員の指導に基づき、「研究報告書」を提出します。

提出期限：【春季入学者】2年次10月末日まで 【秋季入学者】2年次4月末日まで

※ 長期履修学生は、前記に準じて提出期限を設定してください。

提出先：事務局教務・学部運営室

用紙：A4

文字数：日本語：10,000字（10枚）程度（図表を含む。資料は別とする。）

英語：4,000語（12枚）程度（図表を含む。資料は別とする。）

表紙：学籍番号、名前、主・副指導教員名、提出年月日を明記。

部数：6部

研究テーマ：学位論文の題名。

研究の概要：目的、論文の全体的な構成。

関連する先行研究：国内外の先行研究のレビュー。

研究の特色・独創性：先行研究に照らして何がユニークなのか。

研究方法：理論・事例研究、文献・実地調査などの方法。

研究の経過または準備状況：研究はどこまで進展しているか。

- (3) 研究報告書を所定の期限までに提出できない場合は、「研究報告書未提出の理由書」（以下、「理由書」という。）を提出してください。提出延期が認められた場合は、当初予定の半期後の期限までに「研究報告書」を提出してください。期限延期後も研究報告書を提出ができない場合は、さらに「理由書」の提出が出来ますが、原則3回までです。
- (4) 学生は、「研究報告書」の提出後、口頭発表会を行います。主・副指導教員を含む評価者は、学生から提出された「研究報告書」及び口頭発表会の内容を審査し、A B C Dの4段階で評価します（Dは不合格）。その結果を主指導教員が研究科委員会に報告します。研究科委員会はその報告を受けて、その学生が博士候補者として博士学位論文の作成に着手する資格を認定します。

6 博士学位論文の作成及び博士学位論文予備審査について

博士学位論文は、自立した研究者としてふさわしい専門的な学術知識、調査能力、論文作成技法などの達成度をみるためのものと位置づけられています。修士論文よりレベルが高い独創的な発想や研究方法によって作成され、学問的業績として専門学界から評価される研究内容のものでなければなりません。また、字数や枚数の制限は特に設けていません。

博士学位論文の提出手続きは以下のとおりです。

- (1) 博士候補者となった者は、主指導教員の指導に基づき博士学位論文を作成し、博士論文予備審査の申請を行うこととなります。博士論文予備審査の申請の締切日は、前期は4月末日、後期は10月末日です。
- (2) 博士後期課程学位審査研究科委員会は、申請に基づき、当該博士候補者の主指導教員を含む研究科委員会の委員3人以上から成る「博士論文予備審査委員会」を設置します。
- (3) 「博士論文予備審査委員会」の委員長は、審査の結果を博士後期課程学位審査研究科委員会に報告します。博士後期課程学位審査研究科委員会では、それを受けて博士候補者が博士学位授与の申請をすることを許可します。

博士学位論文の予備審査の結果不合格となった者は、次回以降の予備審査に改めて申請することができます。

- (4) なお、一度提出した博士学位論文の取り下げは、口述試験が実施される前のみ可能です。その場合は、主指導教員の承認を得た上で、研究科長に博士学位論文取り下げ願を提出し、博士後期課程学位審査研究科委員会の承認を得てください。

7 博士学位論文の審査及び最終試験の実施について

- (1) 博士後期課程学位審査研究科委員会は、博士候補者に博士学位論文の受理を認めた場合は、「博士論文審査委員会」を設置します。「博士論文審査委員会」は、上記の予備審査委員会の委員に学内外の専門家1人以上を加えて編成します。
- (2) 博士論文審査委員会は、1年以内に博士学位論文の審査と最終試験（口述試験とその他審査委員会が必要とする試験）を実施し、その結果を博士後期課程学位審査研究科委員会に報告します。
- (3) なお、一度提出した博士学位論文の取り下げは、口述試験が実施される前のみ可能です。その場合は、主指導教員の承認を得た上で、研究科長に博士学位論文取り下げ願を提出し、博士後期課程学位審査研究科委員会の承認を得てください。

8 博士学位授与の可否の決定について

研究科委員会では、「博士論文審査委員会」の結果報告を受けて審議を行い、博士学位授与の可否を決定します。

9 博士論文審査基準について

次にかかげる項目を総合的に考慮し、審査を行います。

1. 研究テーマ及び問題設定の妥当性

研究テーマ及び問題設定に妥当性があり、学術的あるいはまた社会的意義が認められること。

2. 研究方法の適切性

先行研究や関連資料・データ等をふまえ、問題設定にふさわしい研究方法によって考察・分析がなされていること。

3. 論旨の妥当性

論旨の進め方に一貫性があり、整合的な結論が導出されていること。

4. 独創性

研究テーマ、問題設定、研究方法、分析、結論等に一定の独創性が認められること。

5. 論文作成能力

文章表現が適切で、博士論文としての構成・体裁が整っていること。

6. 研究倫理の遵守

研究の立案・遂行、研究データの保管、研究成果の発表に関して、適切な倫理的配慮がなされていること、また学内及び関連学会等の倫理基準等を遵守の上、研究がなされていること。

7. 研究者として自立的また自律的に研究活動を遂行していける能力、高度な専門的業務に従事していける能力、またはその基礎となる豊かな学識を有すると認められること。

10 学位について

修了必要単位数を満たした上で、博士論文が上記の審査及び最終試験に合格すると、研究科委員会の判定を経て学位が授与されます。学位は、博士論文の内容によって、次のいずれかになります。

博士（国際学）

博士（学術）

博士（平和学）

11 提出書類、手続き等一覧

○長期履修制度に係るもの（対象：社会人に特定した入試制度により入学した者）

文 書 名	提出期間・期限等	提 出 先
長期履修学生申請書 (入学時から希望する場合)	春季入学者：4月末日 秋季入学者：10月末日	教務・学部 運営室
長期履修学生申請書 (中途から希望する場合)	前期から希望する場合：前年度の2月末日 後期から希望する場合：当該年度の8月末日	
長期履修期間変更申請書 (変更は1回限り。最終年次に在 学する学生は変更できない。)	前期から希望する場合：前年度の2月末日 後期から希望する場合：当該年度の8月末日	

○必要に応じ随時提出するもの

手 続 き	提出期間・期限等	提 出 先
指導教員変更願	必要となった場合速やかに	教務・学部運営室

○研究指導及び学位論文審査に係るもの、学位論文審査日程

博士学位論文等の提出にあたっては、「II 入学から修了まで」及び掲示をよく確認すること。

学年	内容		期間・期限・時期等		提出先
			春季入学者	秋季入学者	
1年	副指導教員希望届の提出		7月末日	1月末日	教務・学部 運営室
	博士学位論文執筆計画書の提出		3月末日	9月末日	
2年	報告書 研究	研究報告書（または研究報告書未提出の理由書）の提出（※1）（※2）	10月末日	4月末日	—
		研究報告書の審査・博士学位論文着手認定	11月	5月	
3年	学位論文予備審査	博士学位論文予備審査申請	10月末日	4月末日	教務・学部 運営室
		予備審査委員会構成員名簿の提出・予備審査委員会の設置	11月	5月	—
		予備審査	11月中旬～ 12月上旬	5月中旬～ 6月上旬	—
		予備審査委員会の審査報告に基づく研究科委員会による博士学位論文審査申請の許可	12月	6月	—
	学位論文本審査	博士学位論文審査申請（※3）	1月中旬	7月上旬	教務・学部 運営室
		審査委員会構成員名簿の提出・審査委員会の設置	1月	7月	—
		審査委員会による審査・最終試験	1月～2月	7月～8月	—
		審査委員会の審査報告に基づく研究科委員会による博士学位授与の承認	3月中旬	9月中旬	—
	博士学位論文（電子データ）の提出（※4）		3月中旬	9月中旬	教務・学部 運営室
	学位授与		3月	9月	—
修了後	学位論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表		学位授与から3月以内		—
	博士学位論文の公表（附属図書館リポジトリ登録）		学位授与から1年以内		教務・学部 運営室

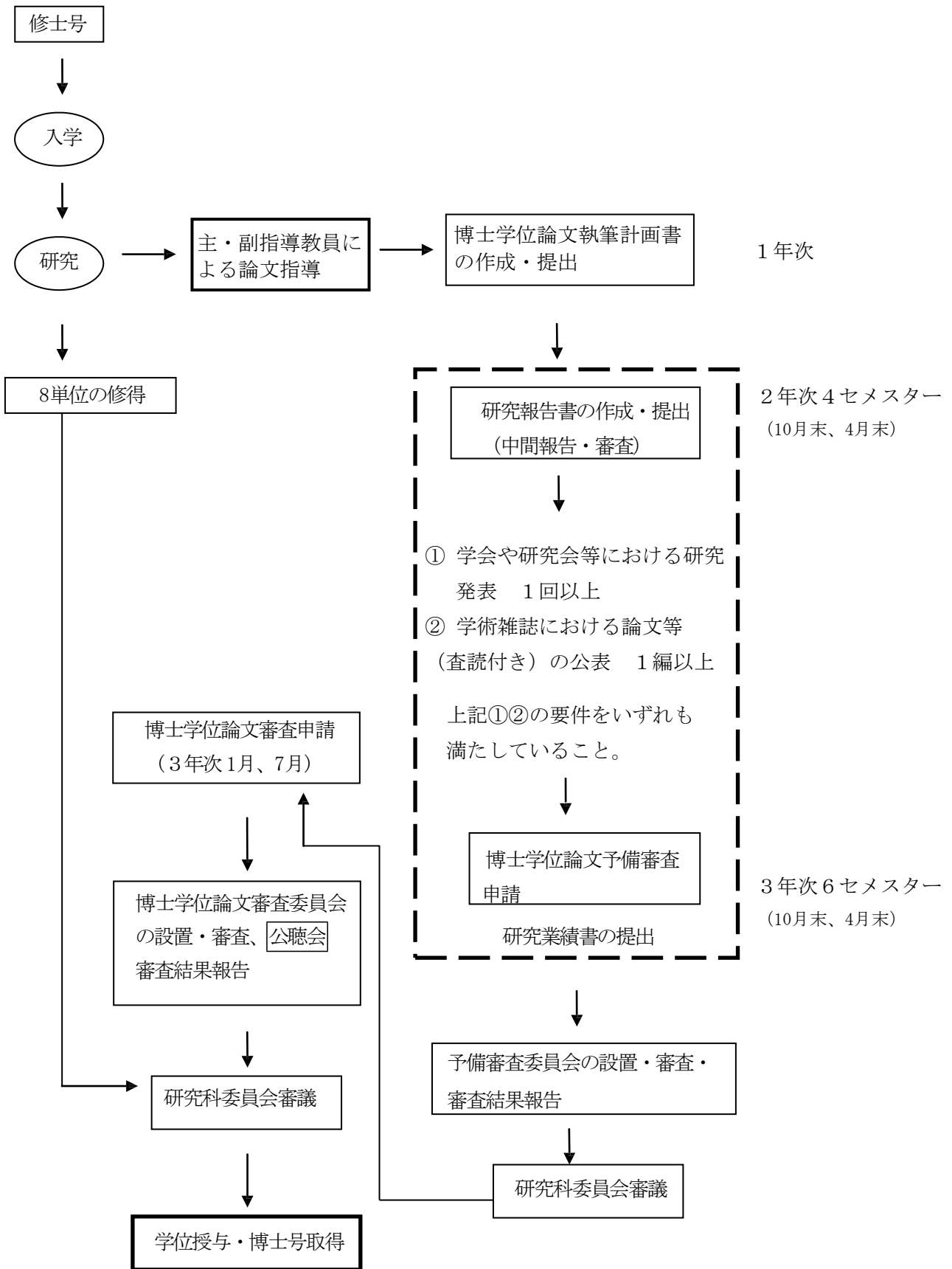
※1 長期履修制度の場合の提出時期はこれとは異なり、最終年次に進むまでの間で「博士学位論文執筆計画書」で決めた時期とする。詳細は「5 研究報告書の提出及び博士候補者の認定について」(1)を参照すること。

※2 所定の期限までに提出できない場合は、「理由書」を提出すること。「理由書」の提出は原則3回まで。詳細は「5 研究報告書の提出及び博士候補者の認定について」(2)を参照すること。

※3 申請のための要件を満たしていれば、「4月入学」及び「10月入学」のいずれに示された日程であっても、博士学位論文予備審査又は博士学位論文審査の申請をすることができる。

※4 審査日程の都合等で期日に間に合わない場合は、事務局教務・学部運営室に事前相談すること。

12 広島市立大学大学院国際学研究所博士後期課程修了のプロセス



13 授業科目一覧表

授業科目	担当者	期	単位数
国際社会研究分野			
国際社会研究演習Ⅰ(国際法)	太田 育子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際法)	太田 育子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際法)	太田 育子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際法)	太田 育子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際協力論)	吉田 晴彦	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際協力論)	吉田 晴彦	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際協力論)	吉田 晴彦	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際協力論)	吉田 晴彦	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(マクロ社会理論)	湯浅 正恵	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(マクロ社会理論)	湯浅 正恵	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(マクロ社会理論)	湯浅 正恵	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(マクロ社会理論)	湯浅 正恵	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(紛争解決論)	古澤 嘉朗	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(紛争解決論)	古澤 嘉朗	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(紛争解決論)	古澤 嘉朗	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(紛争解決論)	古澤 嘉朗	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(比較政治学)	金 栄鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(比較政治学)	金 栄鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(比較政治学)	金 栄鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(比較政治学)	金 栄鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(経済政策論)	高橋 広雅	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(経済政策論)	高橋 広雅	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(経済政策論)	高橋 広雅	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(経済政策論)	高橋 広雅	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(非営利組織論)	金谷 信子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(非営利組織論)	金谷 信子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(非営利組織論)	金谷 信子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(非営利組織論)	金谷 信子	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(環境経済学)	山根 史博	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(環境経済学)	山根 史博	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(環境経済学)	山根 史博	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(環境経済学)	山根 史博	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際開発論)	目黒 紀夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際開発論)	目黒 紀夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際開発論)	目黒 紀夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際開発論)	目黒 紀夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際経営論)	李 在鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際経営論)	李 在鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際経営論)	李 在鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際経営論)	李 在鎬	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(マーケティング論)	李 玲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(マーケティング論)	李 玲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(マーケティング論)	李 玲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(マーケティング論)	李 玲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際金融論)	高久 賢也	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際金融論)	高久 賢也	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際金融論)	高久 賢也	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際金融論)	高久 賢也	1・2・3	2単位

授業科目	担当者	期	単位数
国際社会研究演習Ⅰ(会計学)	井手吉 成佳	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(会計学)	井手吉 成佳	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(会計学)	井手吉 成佳	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(会計学)	井手吉 成佳	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(国際商務論)	寺井 里沙	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(国際商務論)	寺井 里沙	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(国際商務論)	寺井 里沙	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(国際商務論)	寺井 里沙	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(マスメディア論)	井上 泰浩	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(マスメディア論)	井上 泰浩	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(マスメディア論)	井上 泰浩	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(マスメディア論)	井上 泰浩	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(比較国際教育学)	卜部 匡司	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(比較国際教育学)	卜部 匡司	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(比較国際教育学)	卜部 匡司	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(比較国際教育学)	卜部 匡司	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(健康心理学)	山口 光明	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(健康心理学)	山口 光明	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(健康心理学)	山口 光明	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(健康心理学)	山口 光明	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(翻訳論)	横山 知幸	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(翻訳論)	横山 知幸	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(翻訳論)	横山 知幸	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(翻訳論)	横山 知幸	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(Learning, Education and Culture)	開講せず	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(Learning, Education and Culture)	開講せず	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(Learning, Education and Culture)	開講せず	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(Learning, Education and Culture)	開講せず	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(現代思想)	上尾 真道	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(現代思想)	上尾 真道	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(現代思想)	上尾 真道	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(現代思想)	上尾 真道	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(人的資源管理論)	山崎 雅夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(人的資源管理論)	山崎 雅夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(人的資源管理論)	山崎 雅夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(人的資源管理論)	山崎 雅夫	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(応用言語論)	森田 光宏	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(応用言語論)	森田 光宏	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(応用言語論)	森田 光宏	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(応用言語論)	森田 光宏	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(日本語教育学)	重田 美咲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(日本語教育学)	重田 美咲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(日本語教育学)	重田 美咲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(日本語教育学)	重田 美咲	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅰ(対照言語学)	藤原 優美	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅱ(対照言語学)	藤原 優美	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅲ(対照言語学)	藤原 優美	1・2・3	2単位
国際社会研究演習Ⅳ(対照言語学)	藤原 優美	1・2・3	2単位

授業科目	担当者	期	単位数
地域研究分野			
地域研究演習Ⅰ(東南アジア研究)	板谷 大世	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(東南アジア研究)	板谷 大世	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(東南アジア研究)	板谷 大世	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(東南アジア研究)	板谷 大世	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(中国研究)	飯島 典子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(中国研究)	飯島 典子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(中国研究)	飯島 典子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(中国研究)	飯島 典子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(アフリカ社会)	田川 玄	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(アフリカ社会)	田川 玄	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(アフリカ社会)	田川 玄	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(アフリカ社会)	田川 玄	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(東ヨーロッパ研究)	大庭 千恵子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(東ヨーロッパ研究)	大庭 千恵子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(東ヨーロッパ研究)	大庭 千恵子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(東ヨーロッパ研究)	大庭 千恵子	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(American Literature and Culture)	Michael Gorman	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(American Literature and Culture)	Michael Gorman	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(American Literature and Culture)	Michael Gorman	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(American Literature and Culture)	Michael Gorman	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(日本社会)	Ulrike Wöhr	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(日本社会)	Ulrike Wöhr	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(日本社会)	Ulrike Wöhr	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(日本社会)	Ulrike Wöhr	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(日本政治外交論)	武田 悠	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(日本政治外交論)	武田 悠	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(日本政治外交論)	武田 悠	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(日本政治外交論)	武田 悠	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(日本文化史)	山口 えり	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(日本文化史)	山口 えり	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(日本文化史)	山口 えり	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(日本文化史)	山口 えり	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(フランスの文学と文化)	大場 静枝	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(フランスの文学と文化)	大場 静枝	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(フランスの文学と文化)	大場 静枝	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(フランスの文学と文化)	大場 静枝	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(中東アラブ研究)	田浪 亜央江	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(中東アラブ研究)	田浪 亜央江	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(中東アラブ研究)	田浪 亜央江	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(中東アラブ研究)	田浪 亜央江	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅰ(ラテンアメリカの文化と歴史)	吉江 貴文	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅱ(ラテンアメリカの文化と歴史)	吉江 貴文	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅲ(ラテンアメリカの文化と歴史)	吉江 貴文	1・2・3	2単位
地域研究演習Ⅳ(ラテンアメリカの文化と歴史)	吉江 貴文	1・2・3	2単位

広島市立大学博士学位規程国際学研究所内規

第1章 総則

(趣旨)

第1条 広島市立大学学位規程（以下「規程」という。）第19条の規定に基づき、この内規を定める。

第2章 研究科博士後期課程修了認定のために行う学位審査

(学位論文予備審査申請及び資格要件)

第2条 博士学位論文（以下「学位論文」という。）を提出する予定の者は、予備審査のため、指導教員の承認を得て、次の書類を研究科長に提出するものとし、提出の時期は別途定める。

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| (1) 博士学位論文予備審査願 | 4通(原本1、写し3) |
| (2) 論文目録（A4判、縦長横書き） | 4通(原本1、写し3) |
| (3) 論文 | 4通 |
| (4) 参考論文があるときは、参考論文 | 4通 |
| (5) 論文要旨（A4判、縦長横書き、4000字以内） | 4通(原本1、写し3) |
| (6) 履歴書 | 4通(原本1、写し3) |
| (7) 研究業績書 | 4通(原本1、写し3) |

2 予備審査の申請を提出することができる者は、博士後期課程研究報告書を提出し、その内容が研究科委員会において承認された者とする。また併せて、学会や研究会等における研究発表を1回以上、かつ学術雑誌における論文等（査読付き）の公表を1編以上している者とする。

(予備審査)

第3条 研究科委員会は、第2条の規定による書類が提出されたときは、その内容が学位審査に値するか否かを判定するため、学位論文予備審査委員会（以下「予備審査委員会」という。）を設置し、予備審査を行う。

2 予備審査委員会は、主指導教員を含む研究科委員会の委員3名以上で構成する。

(結果報告)

第4条 予備審査委員会は、予備審査を終了したときは、文書で研究科委員会に報告し、その承認を得るものとする。

(論文提出の時期及び資格要件)

第5条 学位論文の提出期限は、別途定める。

2 学位論文を提出することができる者は、次の各号にすべて該当する者とする。

- (1) 第3条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判定された者
- (2) 博士後期課程において所定の単位を修得した者又は論文を提出する日の属する学年

末までに、所定の単位を修得する見込みが確実な者で、必要な研究指導を受けた者

- 3 学位論文は、第3条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判定された後1年以内に提出するものとする。
- 4 第3条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判定された者が、博士學位論文の提出に至らなかった場合又は学位論文が認められなかった場合は、改めて予備審査を受けるものとする。

(論文提出の手續)

第6条 前条第3項の規定に該当する者が學位論文を提出する場合は、次の書類を指導教員の承認を得て研究科長に提出するものとする。

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| (1) 博士學位論文審査願 | 4通(原本1、写し3) |
| (2) 論文目録(A4判、縦長横書き) | 4通(原本1、写し3) |
| (3) 論文 | 4通 |
| (4) 参考論文のあるときは、参考論文 | 4通 |
| (5) 論文要旨(A4判、縦長横書き、4000字以内) | 4通 |
| (6) 履歴書 | 4通(原本1、写し3) |
| (7) 研究業績書 | 4通(原本1、写し3) |
| (8) 學位論文予備審査終了通知書(写し) | |
| (9) 學位論文予備審査結果報告書(写し) | |

(論文の受理)

第7条 研究科長は、前条の規定により學位論文の提出があったときは、研究科委員会に受理すべきか否かを諮るものとする。

(審査委員会)

第8条 研究科委員会は、學位論文の受理を認めた場合は、速やかに博士學位論文審査委員会(以下「審査委員会」という。)を編成する。

- 2 審査委員会は第3条で規定する予備審査委員会の委員に学内外の教員等1名以上を加えるものとする。
- 3 審査委員会は、1年以内に學位論文の審査と最終試験(口述試験その他審査委員会が必要とする試験)を実施し、その結果を研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。

第3章 論文提出による学位審査

(學位論文予備審査申請及び資格要件)

第9条 規程第3条第3項の規定に基づき、論文提出による博士の学位の授与を申請する予定の者は、予備審査のため、次の書類を研究科長に提出するものとする。

- | | |
|---------------------|-------------|
| (1) 博士學位論文予備審査願 | 4通(原本1、写し3) |
| (2) 論文目録(A4判、縦長横書き) | 4通(原本1、写し3) |

- (3) 論文 4通
- (4) 参考論文があるときは、参考論文 4通
- (5) 論文要旨（A4判、縦長横書き、4000字以内） 4通（原本1、写し3）
- (6) 履歴書 4通（原本1、写し3）
- (7) 研究業績書 4通（原本1、写し3）

2 前項に規定する予備審査の申請を提出することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学院博士後期課程に3年以上在学して所定の単位を修得し、かつ、研究指導を受けた後退学した者
- (2) 大学院博士前期課程の修了者で、4年以上の研究歴を有するもの
- (3) 大学の卒業生で、6年以上の研究歴を有するもの
- (4) 前各号に掲げる者以外の者で、10年以上の研究歴を有するもの

（予備審査）

第10条 研究科委員会は、第9条第1項の規定による書類が提出されたときは、その内容が学位審査に値するか否かを判定するため、学位論文予備審査委員会（以下「予備審査委員会」という。）を設置し、予備審査を行う。

2 予備審査委員会は、研究科委員会の委員3名以上で構成する。

（結果報告）

第11条 結果報告については、第4条の規定を準用する。

（論文提出の手続）

第12条 第10条の規定による予備審査委員会において、学位審査に値すると判断された者が論文を提出する場合は、次の書類を研究科長を経て学長に提出するものとする。

- (1) 学位申請書 4通（原本1、写し3）
- (2) 論文目録（A4判、縦長横書き） 4通（原本1、写し3）
- (3) 論文（A4判、縦長横書き） 4通
- (4) 参考論文のあるときは、参考論文 4通
- (5) 論文の要旨（A4判、縦長横書き、4000字以内） 4通
- (6) 履歴書 4通（原本1、写し3）
- (7) 研究業績書 4通（原本1、写し3）
- (8) 最終学校の卒業証明書又は卒業証書の写し 4通（原本1、写し3）
（大学院修了証明書又は学位記の写し）
- (9) 研究期間を証する指導教授又はこれに準ずる者の証明書 1通

2 前項の規定にかかわらず、本学国際学部卒業生及び本学国際学研究科修了者でその研究歴が本学に限られるものについては、前項第8号及び第9号に規定する書類は必要としない。

(論文の受理)

第 13 条 論文の受理については、第 7 条の規定を準用する。

(審査委員会)

第 14 条 審査委員会の設置については、第 8 条第 1 項の規定を準用する。

2 審査委員会は、研究科委員会のうちから選出された 3 名以上の審査委員をもって組織する。ただし、研究科委員会において必要と認めるときは、本学大学院の他の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

3 審査委員会は、1 年以内に学位論文の審査及び試験と併せて学力の確認を行い、その結果を研究科委員会に報告し、承認を得るものとする。

(学力の確認方法)

第 15 条 前条に定める学力の確認は、学位申請者が本学大学院博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有するか否かについて口述試験及びその他審査委員会が必要とする試験を実施する。ただし、研究科委員会が学歴、業績等により学位申請者の学力の確認を行い得ると認めるときは、試験の全部又は一部を省略することができる。

(書類の様式)

第 16 条 関係書類の様式は、予備審査に関する別記様式第 1 号から第 6 号、学位論文審査に関する別記様式第 1 号から第 8 号までのとおりとする。

(その他)

第 17 条 この内規に定めるもののほか、必要な事項は、研究科委員会の議を経て研究科長が別に定める。

附 則

(施行期日)

この規定は、平成 13 年 11 月 21 日から施行し、平成 12 年度に入学した者から適用する。

附 則

(施行期日)

この規定は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この規定は、平成 29 年 3 月 2 日から施行し、平成 28 年度に入学したもののから適用する。

附 則

(施行期日)

この規定は、令和 7 年 4 月 1 日から施行し、令和 7 年度に入学したもののから適用する。

別表第1(第19条関係)

(1) 国際学研究科国際学専攻

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要	
			必修	選択	自由		
全 研 究 科 共 通 科 目	人間論 A (人文・社会科学)	1・2		2		(修了要件) 全研究科共通科目 2単位以上 研究科開設科目 主指導教員指定科目 14単位以上 自由選択科目 8単位 専門基礎科目 2単位 計24単位以上	
	人間論 B (自然科学)	1・2		2			
	国際関係と平和	1・2		2			
	ヒロシマと核の時代	1・2		2			
	日本論	1・2		2			
	研究倫理	1・2		2			
	情報と社会	1・2		2			
	道具論	1・2		2			
	都市論	1・2		2			
研 究 科 開 設 科 目	科 目 基 礎 専 門	学術研究の進め方	1・2		2	合計30単位以上を修得し、研究指導を受けた上で、修士論文等を提出し、その審査と最終学力試験に合格すること (主指導教員指定科目に、「専門基礎科目」、「平和学コア科目」、「ピース・インターンシップⅠ」、及び「ピース・インターンシップⅡ」を含むことはできない。社会人学生又は留学生で、全研究科共通科目及び専門基礎科目を履修することが困難な場合は、所定の手続きにより主指導教員指定科目に振り替えることができる。なお、社会人学生及び留学生の定義及び手続きは別に定める。)	
		学術研究のための基礎統計	1・2		2		
	平 和 学 コ ア 科 目	平和学概論	1・2		2		
		広島と世界	1・2		2		
	国 際 関 係 研 究 群	国 際 関 係 研 究 群	HIROSHIMA and PEACE for Graduate Students	1・2			2
			国際政治理論	1・2			2
			国際安全保障理論	1・2			2
			紛争解決論	1・2			2
			平和構築論	1・2			2
			国際協力論Ⅰ	1・2			2
			国際協力論Ⅱ	1・2			2
			日本政治外交論Ⅰ	1・2			2
			日本政治外交論Ⅱ	1・2			2
			中国国際関係史Ⅰ	1・2			2
			中国国際関係史Ⅱ	1・2			2
			東北アジア政治論Ⅰ	1・2			2
			東北アジア政治論Ⅱ	1・2			2
			東南アジア政治論Ⅰ	1・2			2
			東南アジア政治論Ⅱ	1・2			2
			ヨーロッパ国際関係史Ⅰ	1・2			2
			ヨーロッパ国際関係史Ⅱ	1・2			2
			アメリカ政治外交論Ⅰ	1・2			2
			アメリカ政治外交論Ⅱ	1・2			2
			ロシア国際関係史Ⅰ	1・2			2
	ロシア国際関係史Ⅱ	1・2		2			
	公 共 政 策 研 究 群	公 共 政 策 研 究 群	国際法Ⅰ	1・2			2
			国際法Ⅱ	1・2			2
			経済政策論Ⅰ	1・2			2
			経済政策論Ⅱ	1・2			2
			国際開発学	1・2			2
			開発社会学/人類学	1・2			2
			非営利組織論	1・2			2
			社会政策論	1・2			2
環境経済学Ⅰ			1・2		2		
環境経済学Ⅱ			1・2		2		

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
	教育経営学Ⅰ	1・2		2		
	教育経営学Ⅱ	1・2		2		
	比較国際教育学	1・2		2		
	持続可能な開発のための教育 (E S D) 論	1・2		2		
	情報メディア論Ⅰ	1・2		2		
	情報メディア論Ⅱ	1・2		2		
	健康心理学Ⅰ	1・2		2		
	健康心理学Ⅱ	1・2		2		
	行政学Ⅰ	1・2		2		
	行政学Ⅱ	1・2		2		
経営政策研究群	国際経営論Ⅰ	1・2		2		
	国際経営論Ⅱ	1・2		2		
	マーケティング論Ⅰ	1・2		2		
	マーケティング論Ⅱ	1・2		2		
	人的資源管理論Ⅰ	1・2		2		
	人的資源管理論Ⅱ	1・2		2		
	多国籍企業論Ⅰ	1・2		2		
	多国籍企業論Ⅱ	1・2		2		
	国際金融論Ⅰ	1・2		2		
	国際金融論Ⅱ	1・2		2		
	会計学Ⅰ	1・2		2		
	会計学Ⅱ	1・2		2		
	公会計論Ⅰ	1・2		2		
	公会計論Ⅱ	1・2		2		
	日本産業論Ⅰ	1・2		2		
	日本産業論Ⅱ	1・2		2		
	経営政策特講Ⅰ	1・2		2		
	経営政策特講Ⅱ	1・2		2		
	国際商務論Ⅰ	1・2		2		
	国際商務論Ⅱ	1・2		2		
社会文化研究群	現代思想Ⅰ	1・2		2		
	現代思想Ⅱ	1・2		2		
	現代社会論Ⅰ	1・2		2		
	現代社会論Ⅱ	1・2		2		
	ジェンダー論Ⅰ	1・2		2		
	ジェンダー論Ⅱ	1・2		2		
	歴史資料研究	1・2		2		
	日本文化史研究	1・2		2		
	ラテンアメリカ文化論Ⅰ	1・2		2		
	ラテンアメリカ文化論Ⅱ	1・2		2		
	中東イスラーム社会論Ⅰ	1・2		2		
	中東イスラーム社会論Ⅱ	1・2		2		
	アフリカ社会論	1・2		2		
	アフリカ文化論	1・2		2		

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
言語文化研究群	英語教育論Ⅰ	1・2		2		
	英語教育論Ⅱ	1・2		2		
	日本語教育論Ⅰ	1・2		2		
	日本語教育論Ⅱ	1・2		2		
	応用言語論Ⅰ	1・2		2		
	応用言語論Ⅱ	1・2		2		
	対照言語学Ⅰ	1・2		2		
	対照言語学Ⅱ	1・2		2		
	翻訳論Ⅰ	1・2		2		
	翻訳論Ⅱ	1・2		2		
	英語学習論Ⅰ	1・2		2		
	英語学習論Ⅱ	1・2		2		
	イギリス文学・文化論Ⅰ	1・2		2		
	イギリス文学・文化論Ⅱ	1・2		2		
	フランス文学・文化論Ⅰ	1・2		2		
	フランス文学・文化論Ⅱ	1・2		2		
	American Literature and Culture I	1・2		2		
	American Literature and Culture II	1・2		2		
	Cross-cultural Psychology and Communication I	1・2		2		
	Cross-cultural Psychology and Communication II	1・2		2		
国際研究特講	国際研究特講Ⅰ	1・2		2		
	国際研究特講Ⅱ	1・2		2		
	ピース・インターンシップⅠ	1・2		2		
	ピース・インターンシップⅡ	1・2		2		
講義別	特別講義A	2		2		
	特別講義B	2		2		
演習別	特別演習Ⅰ	2		2		
	特別演習Ⅱ	2		2		

別表第2(第19条関係)

(1) 国際学研究科国際学専攻

	授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			摘要
			必修	選択	自由	
研究科開設科目	国際社会研究演習Ⅰ(国際法)	1・2・3		2		(修了要件) 主指導教員の指導により、「国際社会研究演習」又は「地域研究演習」のうちから8単位を修得し、研究指導を受けた上で、博士論文を提出し、その審査と最終試験に合格すること。
	国際社会研究演習Ⅱ(国際法)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(国際法)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(国際法)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(国際協力論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(国際協力論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(国際協力論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(国際協力論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(マクロ社会理論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(マクロ社会理論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(マクロ社会理論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(マクロ社会理論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(比較政治学)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(比較政治学)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(比較政治学)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(比較政治学)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(経済政策論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(経済政策論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(経済政策論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(経済政策論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(非営利組織論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(非営利組織論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(非営利組織論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(非営利組織論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(環境経済学)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(環境経済学)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(環境経済学)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(環境経済学)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(国際経営論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(国際経営論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(国際経営論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(国際経営論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(マーケティング論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(マーケティング論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(マーケティング論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(マーケティング論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅰ(国際金融論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅱ(国際金融論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅲ(国際金融論)	1・2・3		2		
	国際社会研究演習Ⅳ(国際金融論)	1・2・3		2		
国際社会研究演習Ⅰ(会計学)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅱ(会計学)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅲ(会計学)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅳ(会計学)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅰ(国際商務論)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅱ(国際商務論)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅲ(国際商務論)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅳ(国際商務論)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅰ(マスメディア論)	1・2・3		2			
国際社会研究演習Ⅱ(マスメディア論)	1・2・3		2			

国際社会研究演習Ⅲ(マスメディア論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(マスメディア論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(比較国際教育学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(比較国際教育学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(比較国際教育学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(比較国際教育学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(健康心理学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(健康心理学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(健康心理学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(健康心理学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(英語教育論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(英語教育論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(英語教育論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(英語教育論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(応用言語論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(応用言語論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(応用言語論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(応用言語論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(翻訳論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(翻訳論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(翻訳論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(翻訳論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(紛争解決論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(紛争解決論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(紛争解決論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(紛争解決論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(国際開発論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(国際開発論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(国際開発論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(国際開発論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(Learning, Education and Culture)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(Learning, Education and Culture)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(Learning, Education and Culture)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(Learning, Education and Culture)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(英語学習論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(英語学習論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(英語学習論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(英語学習論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(現代思想)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(現代思想)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(現代思想)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(現代思想)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(人的資源管理論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(人的資源管理論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(人的資源管理論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(人的資源管理論)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(日本語教育学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(日本語教育学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅲ(日本語教育学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(日本語教育学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅰ(対照言語学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅱ(対照言語学)	1・2・3		2	

国際社会研究演習Ⅲ(対照言語学)	1・2・3		2	
国際社会研究演習Ⅳ(対照言語学)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(東南アジア研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(東南アジア研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(東南アジア研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(東南アジア研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(中国研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(中国研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(中国研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(中国研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(ロシア史研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(ロシア史研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(ロシア史研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(ロシア史研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(アフリカ社会)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(アフリカ社会)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(アフリカ社会)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(アフリカ社会)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(東ヨーロッパ研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(東ヨーロッパ研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(東ヨーロッパ研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(東ヨーロッパ研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(American Literature and Culture)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(American Literature and Culture)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(American Literature and Culture)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(American Literature and Culture)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(日本社会)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(日本社会)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(日本社会)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(日本社会)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(日本政治外交論)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(日本政治外交論)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(日本政治外交論)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(日本政治外交論)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(日本文化史)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(日本文化史)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(日本文化史)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(日本文化史)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(フランスの文学と文化)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(フランスの文学と文化)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(フランスの文学と文化)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(フランスの文学と文化)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(中東アラブ研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(中東アラブ研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(中東アラブ研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(中東アラブ研究)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅰ(ラテンアメリカの文化と歴史)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅱ(ラテンアメリカの文化と歴史)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅲ(ラテンアメリカの文化と歴史)	1・2・3		2	
地域研究演習Ⅳ(ラテンアメリカの文化と歴史)	1・2・3		2	

別表第3(第22条関係)

(1) 国際学研究科国際学専攻

免許状の種類 中学校教諭 専修免許状 英語

高等学校教諭 専修免許状 英語

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
英語の教科及び教科の指導法に関する科目	英語教育論 I		2	最低必要修得単位数は、24単位
	英語教育論 II		2	
	応用言語論 I		2	
	応用言語論 II		2	
	翻訳論 I		2	
	翻訳論 II		2	
	英語学習論 I		2	
	英語学習論 II		2	
	イギリス文学・文化論 I		2	
	イギリス文学・文化論 II		2	
	American Literature and Culture I		2	
	American Literature and Culture II		2	
	Cross-cultural Psychology and Communication I		2	
	Cross-cultural Psychology and Communication II		2	
教育の基礎的理解に関する科目	教育経営学 I		2	
	教育経営学 II		2	
	比較国際教育学		2	
	持続可能な開発のための教育 (ESD) 論		2	

(2) 国際学研究科国際学専攻
免許状の種類 中学校教諭 専修免許状 社会

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
社会の教科及び教科の指導法に関する科目	国際政治理論		2	最低必要修得単位数は、24単位
	国際安全保障理論		2	
	紛争解決論		2	
	平和構築論		2	
	国際協力論 I		2	
	国際協力論 II		2	
	日本政治外交論 I		2	
	日本政治外交論 II		2	
	中国国際関係史 I		2	
	中国国際関係史 II		2	
	東南アジア政治論 I		2	
	東南アジア政治論 II		2	
	ロシア国際関係史 I		2	
	ロシア国際関係史 II		2	
	経済政策論 I		2	
	経済政策論 II		2	
	国際開発学		2	
	開発社会学/人類学		2	
	環境経済学 I		2	
	環境経済学 II		2	
	国際経営論 I		2	
	国際経営論 II		2	
	マーケティング論 I		2	
	マーケティング論 II		2	
	人的資源管理論 I		2	
	人的資源管理論 II		2	
	国際金融論 I		2	
	国際金融論 II		2	
	会計学 II		2	
	公会計論 I		2	
	公会計論 II		2	
	国際商務論 I		2	
	国際商務論 II		2	
	現代思想 I		2	
	現代思想 II		2	
	歴史資料研究		2	
	日本文化史研究		2	
	ラテンアメリカ文化論 I		2	
	ラテンアメリカ文化論 II		2	
	中東イスラーム社会論 I		2	
	中東イスラーム社会論 II		2	
	アフリカ社会論		2	
	アフリカ文化論		2	
フランス文学・文化論 I		2		
フランス文学・文化論 II		2		
教育の基礎的理解に関する科目	比較国際教育学		2	
	持続可能な開発のための教育 (ESD) 論		2	

(3) 国際学研究科国際学専攻
免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 地理歴史

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
地理歴史の教科及び教科の指導法に関する科目	日本政治外交論Ⅰ		2	最低必要修得単位数は、24単位
	日本政治外交論Ⅱ		2	
	中国国際関係史Ⅰ		2	
	中国国際関係史Ⅱ		2	
	ロシア国際関係史Ⅰ		2	
	ロシア国際関係史Ⅱ		2	
	歴史資料研究		2	
	日本文化史研究		2	
	ラテンアメリカ文化論Ⅰ		2	
	ラテンアメリカ文化論Ⅱ		2	
	アフリカ社会論		2	
	アフリカ文化論		2	
	フランス文学・文化論Ⅰ		2	
	フランス文学・文化論Ⅱ		2	
教育の基礎的理解に関する科目	比較国際教育学		2	
	持続可能な開発のための教育（ESD）論		2	

(4) 国際学研究科国際学専攻
免許状の種類 高等学校教諭 専修免許状 公民

教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目の名称	単位数		摘要
		教職必修科目	教職選択科目	
公民の教科及び教科の指導法に関する科目	国際政治理論		2	最低必要修得単位数は、24単位
	国際安全保障理論		2	
	紛争解決論		2	
	平和構築論		2	
	国際協力論 I		2	
	国際協力論 II		2	
	東南アジア政治論 I		2	
	東南アジア政治論 II		2	
	経済政策論 I		2	
	経済政策論 II		2	
	国際開発学		2	
	開発社会学/人類学		2	
	環境経済学 I		2	
	環境経済学 II		2	
	国際経営論 I		2	
	国際経営論 II		2	
	マーケティング論 I		2	
	マーケティング論 II		2	
	人的資源管理論 I		2	
	人的資源管理論 II		2	
	国際金融論 I		2	
	国際金融論 II		2	
	会計学 I		2	
	会計学 II		2	
	公会計論 I		2	
	公会計論 II		2	
	国際商務論 I		2	
	国際商務論 II		2	
	現代思想 I		2	
	現代思想 II		2	
中東イスラーム社会論 I		2		
中東イスラーム社会論 II		2		
教育の基礎的理解に関する科目	比較国際教育学		2	
	持続可能な開発のための教育 (ESD) 論		2	